

郷土教育推進研究報告書

平成26年度
「郷土日野」指導事例

第10集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

目 次

第10集の発行にあたって	日野市立教育センター 所長 松澤 茂久	1
--------------	---------------------	---

I 研究の概要

1. 研究主題	2
2. 研究主題設定の理由	2
3. 研究の目的	2
4. 重点課題	3
5. 研究構想図	4
6. 研究の進め方	5
(1) 研究組織	5
(2) 研究経過	5

II 研究の内容

1. 郷土教材を活用した実践事例	
(1) 日野の昔話に親しむ	
～日野に伝わる昔話を通して防災意識をもつ～（幼稚園 年少）	6
(2) 情景を思い浮かべ、気持ちを込めて、歌おう！	
～異聖歌と童謡『たきび』から、地域の昔を感じる～（幼稚園 年長）	12
(3) だいすき！わたしのまち！（第1学年 生活科）	18
(4) 「むかしのくらし」（第3学年 社会科）	24
(5) 七小区域の特色をしらべよう！（第3学年 総合）	30
(6) 「学区の教材化」郷土の歴史と開発 ～多摩平と六小～（第4学年 総合）	36
(7) 幼稚園児との交流を通し、学校や地域への理解を深める（第5学年 総合）	42
(8) 古い道具と昔のくらし（第3学年 社会科）	48
2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材	
(1) 「おどろう！いもいもおんど」	
～たきび祭の学習を通して地域に愛着をもつ～（第1学年 生活科）	52
(2) 玉南鉄道と七生村	57
3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり	
(1) 新選組ってなんだろう ～親子で学ぼう幕末日本～ について	59
(2) 地域を見る目～地域資料が語りかけてくれること～	63
(3) 調べ学習での図書館の利用の仕方 郷土教育への市政図書館の活用	69
4. 郷土教育推進のための普及・啓発	
(1) 地域を知る指導者の育成 ～豊田・川辺堀之内地区の教材化～	71
(2) 校長の役割	76
①校長講話「大昔から人が住み続けてきた滝合地区」	76
②校長講話「開校140周年記念式典の朝に」	77

III 研究のまとめ ～成果と課題～

1. 成果	78
2. 課題	79
◎ 郷土教育推進研究協力者・委員会委員名簿	80

第10集の発行にあたって

日野市立教育センター

所長 松澤 茂久

私も着任2年目となり、今年度も郷土教育推進研究委員会の現地研修や郷土資料館の展示会など、様々な参加機会を得ました。そして改めて認識したことは、かつて17年間も日野市で教員として勤務していたのに、私がいかに日野のことについて知らなかったかということです。そういう意味で折に触れて新たな発見ができることはとてもうれしいことでした。日野に戻ってから一番大きな発見は「高幡不動胎内文書」という中世研究の一級資料の存在を知ったことです（この資料については、昨年、呉座勇一氏が「戦争の日本中世史」という著書の中で取り上げています）。

郷土教育というものは、このように古くて新しい分野です。今年度日野市は第2次学校教育基本構想を策定しましたが、その中でも、「地域の自然や歴史を教材とした郷土教育を推進し、体験を通して、子供たちの興味や創造性、感性を豊かに育みます」と、その取り組みの方向性が示されています。

さて、「郷土日野」指導事例第10集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（滝合小学校校長 岡部君夫委員長）が、平成26年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより、ふるさと日野に誇りと愛着をもった子供を育てようとするもので、約10年続き、日野教育の大きな特色となっています。26年度の研究も、幼稚園、小・中学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々などの参加と協力を得て、日野の地域の力を結集して行いました。

今年度は、吹上遺跡の発掘などもあり、豊田地区を中心に研究が行われましたが、古代から現代に至る日野の歴史の中で、豊田地区の果たしてきた役割の大きさを改めて認識しました。来年度から第二小学校の校名が「豊田小学校」に変更されることになりましたが、豊田駅前の再開発が大規模に進む現状と併せて、こうした機会に子供から大人まで市民の郷土への関心が深まってくれれば幸いです。

今年度、大変忙しい中を、郷土教育推進研究委員会に参加して授業研究にご努力いただいた現場の先生方はじめ各委員の皆様、そして研究推進にあたってご協力をいただいた各方面の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

I 研究の概要

1 研究主題

郷土意識を育む指導の在り方 ～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～

2 研究主題設定の理由

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する10年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育目標に「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の平成26年4月の第2次学校教育基本構想では、「地域と共につくる基本と先進の教育」を掲げ、教育のまち日野を目指して、「21世紀を切りひらく力」「次代をつくる特色ある学校づくり」「つながりによる教育」の3つの基本方針に基づき12項目と36の取り組みを設定し取り組んでいる。

さらに、基本方針3では『人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進するため、グローバルな視野をもったつながりによる教育と自然や歴史、文化、芸術、スポーツ、ものづくりに触れる豊かな体験を通して郷土教育を推進することに触れている』

この第2次学校教育基本構想においても「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、郷土教育推進研究委員会では郷土教材の発掘、教材化に努め、指導計画を作成し、全市の幼稚園、小・中学校に普及啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全幼稚園、小・中学校、市立博物館、図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」と設定し、重点課題3点に絞って推進研究と授業実践に当たることとした。

3 研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次の児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- 郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった ひのっ子
- 郷土の特色やよさに気づき、継承・発展させたいと願い、行動する ひのっ子
- 郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる ひのっ子
- 郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる ひのっ子

4 重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題3点を設定した。また、本市の重点課題を受け、これまでに引き続き幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組む。

- ① 郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
- ② 幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
- ③ 郷土教材の開発と郷土教材・実践事例の電子データ化

（1）郷土教育を推進する指導者の育成

- ① 夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。また、年度末に1年間の研究・実践の成果を発表する。夏期研修会は以下の内容で実施した。
 - ・午前 豊田地区フィールドワーク
 - ・午後 日野第二小学校で実践事例の発表・講義・演習
- ② 郷土教育推進研究委員が各学校・地域での郷土教育のリーダーとなる。
 - ・毎月の委員会、実践報告・協議を重ね、研究を深める。
 - ・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。
- ③ 幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

（2）幼稚園・博物館・図書館の連携

博物館・図書館が学校と関わる機能・役割として次の3点が考えられる。

- ① 郷土に関する資料や情報が蓄積されている。
- ② 蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。
- ③ 本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことができる。

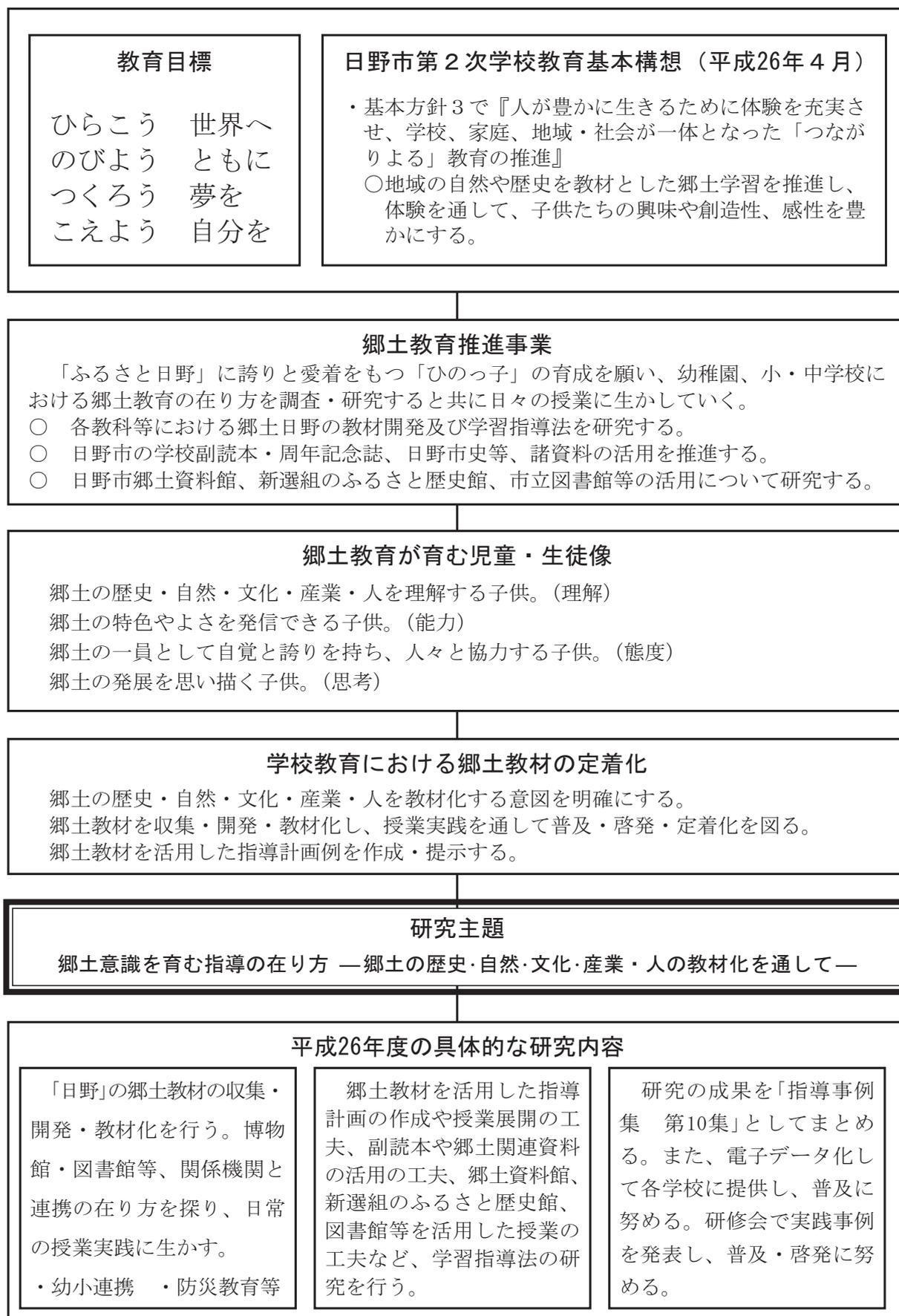
博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

一昨年より幼稚園でも郷土教育に取り組むことになった。今年度も幼・小連携しながら、どのような実践ができるか、実践を通し検証した。

（3）郷土教材の電子データ化 教育センターホームページの充実・整備（PDF化）

- ① 郷土日野指導事例 第1～第10 全ページが閲覧できる。（図版がカラーで見ることができる。）
- ② 郷土日野画像図版資料集 第6集分が完成 写真や図表がすぐ授業に使える。
- ③ 年間3回の発行の「教育センターだより」に、本委員会で発掘・教材化した事例や授業で実践を掲載する。

5 研究構想図



6 研究の進め方

(1) 研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会指導主事、教育センターを事務局として、20名からなる委員会組織を構成した。ほぼ月1回の郷土教育推進研究委員会では、教育センターを会場に開発教材・実践事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学等を行った。

(2) 研究の経過

日時・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
5月8日(木) 滝合小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画 日程等の打ち合わせ
6月5日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員会の構成・組織づくり ・本年度の研究内容の検討 ・研究活動日程の検討
7月4日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点検討(学年、地域) ・フィールドワークのねらい、地域の検討
7月16日(水) 豊田地区	フィールドワーク実地踏査	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
7月24日(木) 豊田地区	郷土教育推進研究委員会③ 「一日研修会」 午前フィールドワーク 午後講義・演習	・フィールドワーク(豊田用水、山口家、善生寺、吹上遺跡、延命寺) ・室内研修(事例発表、講義、演習)
8月25日(月) 教育センター	郷土教育推進研究委員会④	・フィールドワーク反省、まとめ
10月30日(木) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・郷土教材を活用した学習指導の検討・協議 ・研究発表の内容、発表者の検討 ・実践事例集10集プロット検討案検討
11月10日(月) 滝合小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討協議
12月26日(金) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・実践事例集10集プロット検討案検討
1月20日(火) 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・郷土教育を活用した学習指導事例の検討・協議 ・研究発表会の発表原稿検討
2月19日(木) 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑧	・事前リハーサル、研究発表 ・研究発表会の反省、実践事例第10集作成手順
3月20日(金)		・「郷土日野」指導実践第10集 業者原稿入稿
4月10日(金)		・「郷土日野」指導実践第10集 業者納品
4～5月		・関係機関へ発送 ・電子データ化(HP公開)

(中島 和夫、廣木 智之)

Ⅱ 研究の内容

1. 郷土教材を活用した実践事例

(1) 日野の昔話に親しむ

～日野に伝わる昔話を通して防災意識をもつ～

(幼稚園 年少児)

1. 教材化の意図

子ども達は、身の周りがある危険から守られる立場にあるが、これからの時代は守られるべき対象にとどまらず、生涯にわたって自らの安全を確保できる力を身につけ、さらに他者や地域社会の安全を意識して活動することが求められている。

幼稚園では、子ども達に、危険を予測し回避する能力と他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成するための安全教育を行っている。安全教育を行うにあたっては、幼児が、遊びや生活を通して、自分を守ろうとする意識や態度を養うことを目標としている。

そこで、台風の時を題材にした日野の昔話を、安全教育の教材として活用することを通して、台風によってどんなことが起こるのか、台風に遭遇した時にはどのように身を守るとよいのかを知らせたいと考えた。

さらに、昔話にちなんだ場所に行き、実際に見たり話を聞いたりすることを通して、自分が住む地域にも興味や関心、親しみが感じられるようにすると共に、この地域を愛する人々の思いや願いによって、昔話や伝説が現在も語り継がれていたり、文化財として大切に継承されたりしているということ、そして、自分達は、こうした地域の方々によって見守られ、身の周りがある危険から守られ安全安心な環境で過ごすことができるということを幼児なりに理解できるように伝えたいと考えた。

幼稚園の近くには川がたくさんあり、子ども達の遊びの中でも川を作って遊ぶ姿が見られる。



2. 指導計画

(1) 幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領では、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域に分けて、ねらいや内容が示されている。安全教育を行うにあたって、危険な場所や行動に気付けるように、自分の身を守る方法を知り安全に気をつけて動きに移せるように指導を行うことでは、「健康」の領域が大きく占める。

だが、友達と一緒に地域の方や教師から昔話を聞いたり、昔話にちなんだ場所に行き実際に見たり話を聞いたり、自分なりに想像を膨らませ自分の思いを表わしたり、共感し合ったりする一連の活動では、「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の4つの領域に関連した内容を体験し学ぶことができると考えた。

(2) 活動のねらい

- 台風による危険や怖さ、身の守り方を知る。
- 日野の昔話を興味・関心をもって聞く。
- 日野の昔話を通して、地域に興味や関心、親しみを感ずる。

【具体的な内容】

- 台風によってどんなことが起こるのか、台風に遭遇した時にはどのように身を守るとよいかを考えたり知ったりする。
- 台風の時を題材にした日野の昔話を聞き、自分なりに想像する楽しさを感じたり、自分なりに思ったり感じたりしたことを話す。
- 日野の昔話にちなんだ場所に行き、実際に見たり話を聞いたりすることを通して、この地域を愛する人々の思いや願いによって、現在も語り継がれていたり、文化財として大切に継承されたりしているということを知る。

(3) 活動内容

① 日野に語り継がれてきた昔話を聞こう！

『いい湯だな』『恩返しをしたつばめ』

* 幼児の反応

	幼児の具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・『ももたろう』『さるかに』『うらしまたろう』など、昔話はたくさんあるが、子ども達が住んでいる日野にも語り継がれてきた昔話があることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が住む日野には、父母、祖父母、曾祖父母よりもずっと昔から伝わる昔話があることを伝え、興味をもって聞くことができるように動機付けする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市朗読サークル「ひの」に所属されている大高さんによる昔話の読み聞かせに興味をもって聞く。 ・日野の昔話の面白さ（内容、言葉）に触れて・・・楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話をして下さる地域の方に親しみをもち、その方の話を興味をもって聞けるように紹介していく。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに感じたり思ったりしたことを話したり、聞いたりする。 * 「～だべ」「～なや」という言葉が面白い。 * 「日野には畑がいっぱいあったの？」 * 「どんな野菜を作っていたのかな？」 * 「日野にはきつねがいっぱいいたの？」 今とは違う日野の様子に興味津々!! * 「他にはどんな昔話があるの？」 * 「他の昔話も見たい。聞きたいな。」 	<div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">【大高さんによる昔話の読み聞かせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のつぶやきを受けとめたり共感したりしていく。 ・他にも昔話があり、楽しみにする気持ちももてるように言葉をかけていく。

② 日野に語り継がれてきた昔話を聞こう！

『うなぎに救われた話』

* 幼児の反応

	幼児の具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点等
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風の時、園庭や程久保川がどんな様子になるのか興味をもって見る。 ・ 自分なりに感じたり思ったりしたことを話す。 * 風の音がすごい！ * 風が木やブランコも揺らしている。 * 川の水がいっぱいになっている。 * 流れが速くなっている。流されそう。 * 水の色が（濁って）茶色になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像を通して、平常時と台風時の様子を比較できるようにする。 ・ 台風時は暴風や洪水の状態になることを伝え、危険や怖さ、身の守り方を知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>たいふう がおこると どんなことがおこるのかな？</p>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>【平常時：園庭】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【平常時：程久保川】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【台風時：程久保川】</p> </div> </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔話『うなぎに救われた話』を通して、台風により多摩川が増水したが、うなぎが堤防の穴に入り込んだことで、村を洪水から守ったことに興味・関心をもつ。 ・ 【日野宮神社の虚空像菩薩像】 台風の際に撮影した【多摩川】に興味をもつ。 ・ 自分なりに感じたり思ったりしたことを話す。 * 台風になると水が川からあふれそう！ * うなぎが守ったのはすごいね。 * 多摩川にしか、うなぎはいないのかな？ * どの川にもうなぎがいるといいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『うなぎに救われた話』を紙芝居にし幼児に分かりやすい言葉、内容にして伝える。⇒参考文献『日野の歴史と文化 日野の昔話第17号』（日野史談会） ・ 昔話に登場した【日野宮神社の虚空像菩薩像】と台風の際に撮影した【多摩川】の画像を見せながら、昔話により興味・関心をもてるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像や紙芝居などの視覚教材を通して、台風の際には、洪水の恐れがあることを知り、自分の身を守るためにどうしたらよいのかを考えたり話したりする。 ・ 台風の際には、川の水が急激に増えたり流れが速くなったりして危険なので、雨がやんでも川には近付かないように伝える。 	

③ 日野に語り継がれてきた昔話を聞こう！

『転がり落ちたお不動さま』

* 幼児の反応

	具体的な幼児の活動内容	教師の援助・指導上の留意点等
導入	<ul style="list-style-type: none"> 昔話『転がり落ちたお不動さま』を通して、高幡不動の後ろに不動が丘と呼ばれる丘があり、お堂の中に不動尊がまつられていた。建武2年の台風により暴風の影響で吹き飛ばされ、お不動さまは山から転がり落ち鼻をついた。現在でも高幡不動尊に残されており、お堂とお不動さまは再建されたことに興味・関心をもつ。 高幡不動尊に行くことに期待感をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 『転がり落ちたお不動さま』を紙芝居にし幼児に分かりやすい言葉、内容にして伝える。⇒参考文献『日野の歴史と文化 日野の昔話第18号』（日野史談会） 
展開	<ul style="list-style-type: none"> 小杉博司顧問にご同行いただきながら、昔話『転がりおちたお不動さま』にちなんだ場所を始め、子ども達に馴染みがある公園や川、そして高幡不動尊内の建造物などについて、謂れや伝説を教えて頂き、興味・関心、親しみをもつ。 自分なりに感じたり思ったりしたことを話す。 <p>【たちばな公園】【ねんも公園】【程久保川】 【不動堂の不動三尊、身代わり本尊】 【奥殿の不動明王坐像・こんがら童子像・せいたか童子像～漆の眼伝説、別旅伝説】</p>  <p>【不動堂】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児が親しみやすいように、小杉顧問に子ども達が住んでいる地域のことは何でも知っている“ドラじい”に変身して、話を聞かせて頂く。 幼児が思ったり感じたりしたつぶやきを受けとめたり共感したりしていくことで、見たり聞いたりしたことが印象づくりにしていく。  <p>【お鼻井戸】</p> <p>【仁王門の仁王像、金剛力士】 【大日堂の鳴り龍】 【土方歳三像】</p>

ま と め	<p>*大きなお不動さまを落としてしまう台風はすごい力だね。</p> <p>*お不動さまは、怖い顔をしているけれど、剣と綱を持って悪者と戦い、みんなを守ってくれているから優しい。</p> <p>*井戸の水で鼻の病気が治るなんてすごい。意地悪な天狗の鼻が治らないのは面白い。</p> <p>*お不動さまの鼻やお家（お堂）を修理してあげた日野の人達は優しいね。</p> <p>・紙芝居の視覚教材や体験を通して、台風時には、暴風の恐れがあることを知り、自分の身を守るためにどうしたらよいかを考えたり話したりする。</p>	<p>・高幡不動尊に行った感想を聞きながら振り返る。</p> <p>・保護者の方に対して、子ども達の様子や感想を伝えると共に高幡不動尊には様々な伝説や謂われがあることを伝え、親子で話を共有するきっかけを作ったり、保護者自身も、地域に興味や関心がもてたりするように伝える。</p>
-------------	---	---

3. 成果と課題

(1) 成果

- 日野の昔話を紙芝居にし視覚教材として活用することを通して、幼児なりに台風によってどんなことが起こりうるのか想像を膨らませたり、台風による危険や怖さを知ったりして、身の守り方を考えてみようとする姿につなげることができた。
- 朗読サークル所属の大高さんに日野独自の語り口で読み聞かせをしていただいたり、小杉顧問に実物を見ながら伝説を聞いたりすることを通して、子ども達に昔話の内容が印象づき、昔話により興味・関心をもつ姿につなげることができた。さらに、子ども達が住む地域にある「高幡不動尊」に対しても、興味や関心、親しみを感じる感想を聞くことができた。
- 子ども達が保護者の方に対して、見たり聞いたり体験したりしたことを話すことを通して、保護者自身が日野に昔話があることを始め、この地域を愛する人々の思いや願いによって、昔話や伝説が語り継がれていること、文化財として大切に継承されていることを知り、自分達が住む地域に興味・関心をもっていただく機会となった。

(2) 課題

- 幼児期から体験を通した郷土教育を推進し、幼稚園、家庭、地域・社会が一体となったつながりの中で実践していくことで、「日野」に対する親しみと愛着、誇りをもったり、「日野」のよさや特色に気付いたりする力を育むと共に、子ども達の興味や創造性、感性を豊かにすることにつながると思われる。従って、郷土教育の年間指導計画を作成し、教材開発に努めながら、継続的に指導していく必要性を感じた。
- 日野の昔話をもとにして紙芝居を作成するにあたり、いつ頃のもので時代背景はどのようなものなのか、この言葉が意味するものは何かなど、様々な疑問にぶつかった。日野に語り継がれる昔話や伝説を今後も子ども達に伝えていきたいと思うが、語り継ぐ立場に立つ者として、郷土資料館、市政図書室、教育センター等の機関を利用して情報を収集したり、有識者

の方々にご意見を伺ったりしながら、正しい解釈と理解のもと、語り継いでいく必要性を感じた。

○郷土教育は、子ども達の思いや願い、疑問を受け止め、見守ったり、実現できるように手助けしたりしていく大人の存在が大きいと考える。従って、保護者自身が、郷土教育の意義に気付けるように、情報を発信したり、親子で一緒に体験しながら郷土教育を受ける機会を作ったりする必要性を感じた。

(森 陽子)

指導にあたり、ご協力とご指導を頂きました、日野市朗読サークル「ひの」に所属されている大高勲様、元第一小学校校長小杉博司顧問には、心より感謝申し上げます。

資料1

「うなぎに救われた話」

紙芝居：自作教材

資料2

「転がり落ちたお不動様」

紙芝居：自作教材

参考資料：「日野の歴史と文化」

日野の昔話第17号 昭和57年

参考資料：「日野の歴史と文化」

日野の昔話第18号 昭和58年



(2) 情景を思い浮かべ、気持ちを込めて、歌おう！

～異聖歌と童謡『たきび』から、地域の昔を感じる～

(幼稚園 年長児)

1. 教材化の意図

日頃、幼稚園では、子どもたちと様々な歌を歌っている。歌を歌うことを通して、その歌の様子や情景を思い浮かべたり、歌の雰囲気やイメージに合わせて表現したり、友達と一緒に声を合わせたりする楽しさを子どもたちは感じている。

第七幼稚園が位置する「旭が丘」には、今から60年くらい前、童謡「たきび」を作詞した異聖歌が住んでいた。地域の旭が丘中央公園には、童謡「たきび」の詩碑があり、「たきび祭」が12月に催されている。また、最寄りの豊田駅の発車音には「たきび」のメロディー音が使われている。

そこで、童謡「たきび」を通して、昔の情景をイメージしたり、曲の雰囲気を味わったりしながら、歌うことを楽しませたい・・・と考えた。さらに、童謡「たきび」にちなんだ詩碑や祭り、発車音などが身近にあることから、童謡「たきび」や異聖歌を大切に思っている人たちがいることや自分達の住んでいる「旭が丘」という地域の昔の様子に思いを馳せ、興味や愛着をもって欲しいと考えた。

2. 指導計画

(1) 幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領では、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域に分けて、ねらいや内容が記されている。遊びや活動の中で、それぞれに関連する内容を経験し、学ぶように保育は組み立てられる。歌を歌う活動では、「表現」「言葉」の領域が占める部分が多いが、実際にその場を訪れることや、人から教わったりちなんだ話を聞いたりすることは「環境」「人間関係」の領域が関わってくる。よって、今回の一連の活動では、「表現」「言葉」「環境」「人間関係」の4つの領域に関連した内容を経験し、学ぶ。

(2) ねらい

- 情景を思い浮かべ、気持ちを込めて、童謡「たきび」を歌う。
- 歌や地域の人の話などを通して、自分の住んでいる地域の昔を感じ、興味・関心や愛着をもつ。



(3) 活動内容

① たきびを体験し、童謡「たきび」を歌おう！

実際の幼児の反応「 」

	幼児の具体的な活動と反応	教師の援助と指導上の留意点
準備する	<p>○たきび（焼き芋）の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉を集める。 ・たきび（焼き芋）をすることを知り、楽しみにする。 <p>「(落ち葉が) お芋のお布団になるんだね」 「おいしいお芋が焼けるかな」</p>	<p>○たきび（焼き芋）の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきびのために落ち葉を集め、自分たちも準備に携わることで、たきび（焼き芋）が楽しみになるようにする。 ・くすぶらずに燃える種類や乾いた葉が良いこと等、具体的に知らせ、適した物を集められるようにする。
体験する	<p>○（保護者主催の）‘焼き芋会’でたきびをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきびの様子を見る。 ・火にあたる。 ・芋を火に入れる。 <p>自然と火に手をかざす動作（あたる）をする子もいた。</p> <p>「あったかいね」 「ぱちぱちって拍手をしているみたい（な音がする）」 （あたって後）「ねえ、ほっぺ触って！あたたかいよ」 「(そばは) すごく熱かったよ！（離れても）まだ、あったかい」</p>	<p>○（保護者主催の）‘焼き芋会’でたきびの体験をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきびの様子を見たり側に寄ったり、教師も一緒に体験し、共感できるようにしながら、幼児の感想を引き出す。 ・幼児の驚きや気付いたことなどを受け止め、友達同士でも共感し合えるように広めていく。 
表現する	<p>○たきびの体験を思い出し話し合う。</p> <p>「ほっぺがぼかぼかした」 「気持ちもあったかくなる」 「たきびの周りは、(どこも) 全部あたたかかった」</p> <p>○「たきび」の歌を知る。歌う。</p> <p>「豊田駅の歌だ!!」 メロディを知っていた為か、すぐに口ずさむ子が多かった。 歌いながら、火にあたる動作をして楽しむ様子も見られた。 「歌もあったかい感じがする」</p>	<p>○たきびの感想を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たきびをした時の写真をみんなで見て振り返り、友達同士でも共感しやすくなるようにする。 ・幼児の発言、動作を十分引き出し、たきびの様子や雰囲気、あたたか気持ちなどを思いおこしていく。 <p>○「たきび」の歌を知らせ幼児と歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材を用い、歌詞の意味や、昔はたきびがよく行われていたことを知らせ、歌の情景をイメージできるようにする。

表
現
す
る

「歌もあつたかい感じがする」



- ・思い起こした、たきびの雰囲気やあつた気持ちと比較しながら、「たきび」の歌の雰囲気を感じさせる。
- ・たきびの雰囲気やあつた気持ちを込めて歌えるように働きかける。

たきびの注意：

- ・火入れの許可を受ける！（消防署や土地の管理者等より）
- ・火災が起こらないようにする！
- ・近隣に配慮する！

② 地域の昔を感じ、気持ちを込めて、童謡「たきび」を歌おう！

実際の幼児の反応「 」

	幼児の具体的な活動と反応	教師の援助 指導上の留意点
興 味 を も つ	<p>○ ‘たきび博士’ からの手紙を見る。</p>  <p>「たきび博士って誰？」 「‘たきび’ を作った人かな？」 「たき火っていう名前をつけた人じゃない？」 「ここはどこでしょう？ って書いてあるよ！」 「知ってる！、旭が丘中央公園だよ」 「たきびの歌がかいてある！」 「ここで待ち合わせだって。 ドキドキする。」</p>	<p>○ ‘たきび博士’ からの手紙を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味を膨らませるように、謎の手紙として、演出する。 ・幼児のつぶやきを受け止め、共感する。 ・みんなで手紙を見合う機会を作り、内容とともに、感じたことを、友達同士でも共感し合い、共通理解できるようにする。 

見
る
・
聞
く
・
知
る

○旭が丘中央公園に行く。
・詩碑を見る。
「こんな所にあったんだ。」
「何でここにあるのかな？」
「たきびの歌が書いてある」
詩碑の歌詞を見て、たきびの歌を歌い出す
子たちもいた。
「たきび博士はどこ？」
○たきび博士に会い、話を聞く。
たきび博士に会えたことを喜び、話を聞いて
いた。
「(この辺りは) 昔、向こうまで、ずっと
林だったんだ！」
「昔はお家にヤギもいたの？」
「この人がたきびの歌を作ったんだね」

○旭が丘中央公園に行く。
○詩碑を見る。
・手紙に載っていた写真と同じ物かを確認
しながら、詩碑の様子をよく見られるよ
うにしていく。
・感じたことを言葉にして、みんなで改め
て意識できるようにする。
○たきび博士に会い、話を聞く。
・事前に、話す内容を打ち合わせしておき、
お話して頂く。
・幼児が興味をもちやすいよう、大きな写
真や聴覚教材などを利用する。

この写真の人が異聖歌さんです。

童謡「たきび」を作詞した異聖歌
という人が昔、この近くに住んで
いました。昔この辺りは、家はあ
まり無くて、林ばかりでした。

今はなかなかできないけれど、昔、
たきびは、よく行われていました。
たきびをすると、みんながあたり
にきたものです。



「たきび」の歌はとても有名な
歌で、小学校の教科書にも載っ
ています。みんな知っています。

異聖歌や「たきび」の歌が大
好きな人たちで、この詩碑を
立てました。詩碑の後ろの花
は「たきび」の歌にも出てく
るサザンカです。

豊田駅の発車音も、2300人も
の人の署名を集めて、今から4年
位前に、「たきび」のメロディ
にしてもらいました。

たきびや異聖歌を大切にしたいと
「たきび祭」という祭りもしています。

<p>「何で、みんなで‘たきび’にあたるのかな？」</p> <p>「たきびの歌が大好きな人たちはたくさんなんだね」</p> <p>「(豊田駅は) ずっと前からあの (発着) 音じゃないんだ！」</p> <p>「たきび祭、行ったことある！」</p> <p>○巽聖歌の家があった場所に行く。</p> <p>「ここに (巽聖歌の) お家があったんだ」</p> <p>「ここにヤギもいたのかな？」</p> <p>「空からきっと (巽聖歌さんが) 見ているよ」</p> <p>「私のお家のすぐ近くなんだね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児なりに昔の生活の様子や雰囲気がわかるように、具体的な様子を知らせたり写真を利用したりする。 ・不思議に思っていたことが、わかった時は、幼児に共感していく。 <p>○巽聖歌の家があった場所に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園から近いところにあったことや、旭が丘の変化を感じられるように働きかけていく。 
<p>表現する</p> <p>○感想を話し合う。</p> <p>家庭で、自分の知ったことを話した幼児もいた。</p> <p>「僕のことを‘たきび博士’だってお母さんが言っていたよ」</p> <p>「おばあちゃんも、お母さんもたきびの歌を知っていた」</p> <p>近所に「たきび」の歌を作った人がいたことに驚いていた。</p> <p>「私のお家のそばに‘たきび’の人が、昔住んでいたんだね。」</p> <p>「たきびのうた、大好き!!」</p> <p>○童謡「たきび」を歌う。</p> <p>優しい声、雰囲気ですごう子が増えていた。</p> <p>「(詩碑の周りに) サザンカ、あったよね」</p> <p>「‘たきび’作った人に聴こえているかな」</p> <p>誰かが歌い始めると、他の子も歌い出し、いつのまにかみんなで歌う場面が何度も見られた。</p>	<p>○感想を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭にも、詩碑のそばで聞いた話や幼児の様子等を伝えておき、幼児と保護者が話を共有できるようにしておいた。また、保護者自身も地域に興味をもつきっかけとなるよう働きかけた。 ・幼児が覚えていることを聞き出しながら、感じたこと、わかったことを確認した。そして、幼児なりに、昔の旭が丘の様子をイメージし、童謡「たきび」に、身近な気持ちや大切な気持ちを感じられるよう働きかけた。 <p>○童謡「たきび」を歌う指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の旭が丘をイメージし、その子なりの童謡「たきび」への気持ちや想いを込めて歌えるよう、働きかける。 ・教師自身も雰囲気や気持ちを込めて一緒に歌ったり伴奏を弾いたりし、共感する。

3. 成果と課題

(1) 成果

- 幼児が実際に‘たきび’を体験し、温かさや心地よさを実感できた。また、直接、地域の人から話を聞くことで、異聖歌や『たきび』への想いに触れられた。これらの直接体験は、幼児にとって、とても印象的で、幼児自身も童謡『たきび』に対して特別な思い（身近さや大切さ等）をもつことにつながられた。
- 『たきび』の歌を通して、昔の情景や生活、「旭が丘」の様子をイメージしたり、気持ちや雰囲気を含めたりして歌う楽しさを味わう機会につながられた。
- これら一連の活動を通して、地域への興味をもたせるきっかけが作れた。昔の情景や生活、「旭が丘」の様子を幼児なりにイメージした経験は、小学校以降の昔の生活や地域を、‘正確に知る’活動への興味にもつながると思われる。
- 幼児の経験を、保護者に見学してもらったり、伝えたりすることで、保護者にも地域へ興味をもってもらえる機会が作れた。

(2) 課題

- 多くの方が地域に興味をもてるよう、今後も、幼児の地域への興味を引き出す活動を継続できると良いと思われる。その為に、継続的に保育に取り入れていけるよう、今回の取り組みを共有する機会をつくったり年間計画に取り入れたいことを行っていきたい。
- 教師自身が地域への興味を深めたり広げたりしていくことが、幼児の地域への興味を引き出す活動へとつながる。興味を深めたり広げたりする機会を作っていきたい。
- 今回は、保護者主催ということで、‘たきび’を行い、幼児が体験することができた。たきびを行える場や機会が無くなってきているという現状はあるが、幼児の体験という意味で、とても価値あることなので、継続できる方法を探っていきたい。

※旭が丘中央公園の詩碑の前でのお話は、田中三雄様にいただきました。また、河村由美様にもお手伝いいただきました。幼児へのかかわり、ご配慮に心より感謝申し上げます。

(榎本 恭子)

(3) 「だいすき！わたしのまち！」

(第1学年 生活科)

1. 教材化の意図

潤徳小学校は、京王線高幡不動駅の目の前にある小学校である。潤徳小学校を挟んで、南側には駅や高幡不動尊、商店街や公共施設等が並び、北側にはトンボ池や浅川、公園、緑地、田んぼ・畑等、自然が多くある。特に、トンボ池は、地域の方と市の職員が協力をし、人工で作った池である。もともとはアスファルトででき、学校との境が明確になるようにフェンスも備え付けてあったようだが、子どもたちの学びの場になるようにという願いを込めて、自然のビオトープという形で生まれ変わった。ザリガニや小魚なども多くいる。

また、地域の方々も子どもたちにとっても優しい。1年生はまだ地域の人々とのかかわりは少ないが、朝の通学では、「おはよう」と声を掛けてくれるアスファルト工場のおじさん、授業中や放課後に生き物や様々な遊びを教えてくれるおじさんなど深くかかわってくださる方もいる。

また、本校の生活科では、自分たちの身近な地域の人々や様々な場所とかかわる活動を繰り返し行うことで、四季の移り変わり・自然のおもしろさや不思議さ、季節特有の遊びの楽しさを味わうとともに、地域のよさやそこに住んでいる人々のあたたかさを感じ取る活動を行っている。1年生では、主に学校や学区にある公園等を中心に活動し、四季の移り変わりや自然のおもしろさを味わい、地域への親しみや愛着をもつことをねらいとしている。2年生では、商店街や図書館等の公共施設等、関わる人々や場所を広げ、親しみをもって人々と接したり、愛着をもって正しく利用したりすることをねらいとしている。

本単元では、1年生の子どもたちが身近な地域の人々や様々な場所と繰り返し関わる活動を通して、対象との関わりを深め、身近な場所や人への親しみや愛着が深まり、地域のことがより大好きになってほしいと考えた。そこに至るまでの過程には、子どもたちの気付きの質を高めることが、地域への愛着や親しみを高めることにつながると考える。

2. 指導計画 第1学年 生活

(1) 単元のねらい

- 身近にある自然との触れあいを通して、遊びを工夫したり、四季を感じたりすることができる。
- 四季の移り変わりや自然のおもしろさ・不思議さに気付く中で、身近な地域に親しみをもつことができる。
- 身近な地域にある自然のよさや、地域の方のあたたかさを感じる中で、地域の人のおかげで安全に遊ぶことができることを知ることができる。

(2) 単元の指導計画 (36時間)

次	時	活動内容	○教師の支援 ◆評価
1 学区域探検 5月	4	○自分たちの学区域を探検し、 楽しそうな所や行ってみたい ところを見つける。	○自分たちの地域に興味や関心をもてるよ う、子どもたちが日頃からよく行く公園 等を探検する。 ○どこでどんなことをしたいか交流させる。 ◆行きたい場所ややってみたいことを見つ けている。
2 夏の浅川・ トンボで遊 ぼう 6～7月	10	○あじさいまつりに行く ○夏の大木島公園やリス公園、 トンボ池であそぶ ・遊具を使って遊ぶ ・葉や花、木の実、石を利用 して遊ぶ。 ・網ですくって魚や水生昆虫 等をつかまえる。 ・手で虫をつかまえる。 ・秘密基地を作る。 ・おにごっこをする。 ・木登りをする。 ○夏の生き物や植物に気付く。 ○発見カードに記入する	○高幡不動尊以外にも、あじさいが町の様々 な所に咲いていることに気づかせる。 ○自然を生かして遊んでいる児童を称賛す る。 ○自然のものや身の回りのものを工夫して 遊んでいる児童を称賛する。 ◆友達と一緒に遊ぶと楽しいことに気付い ている。 ◆公園やトンボ池の環境を生かした遊びを している。 ◆みんなが楽しめるようなルールを考えな がら遊んでいる。
3 夏の浅川・ トンボ池で 遊ぼう 9月～10月	4	○夏の浅川やトンボ池で遊ぶ ・葉や花、石を利用して遊ぶ。 ・網ですくって魚や水生昆虫 等をつかまえる。 ・網や手でバッタやカマキリ 等の虫をつかまえる。 ○夏の生き物や植物の背がぐん と伸びることに気付く ○生い茂った草木が伐採された ことに気付く	○1学期に見つけた自然と変化があるのか 考えさせる。 ○夏の自然を生かして遊んでいる児童を称 賛する。 ○友達の遊びを真似たり、新しいルールを 加えて遊んだりしている児童を称賛する。 ○地域の誰かが安全に遊べるように環境を 整えてくれていることを知る。 ◆友達と一緒に遊ぶと楽しいことに気付い ている。 ◆浅川やトンボ池の環境を生かした遊びを している。 ◆みんなが楽しめるようなルールを考えな がら遊んでいる。 ◆季節によって自分たちの遊びや生活の仕 方が変わることに気付いている。 ◆地域の人が安全に遊べるよう見守って くださっていることに気付いている。

<p>4 秋の浅川・ トンボ池で 遊ぼう 10～11月</p>	<p>10</p>	<p>○もみじまつり・きくまつりに行く ○秋における大木島公園や浅川、トンボ池であそぶ ・木の実や葉を集める。 ・植物の実を服に付けて遊ぶ ・カマキリやバッタ等の虫をつかまえる。 ・おにごっこをする。 ・木々の間を探検する。 ・落ちていた葉や木の実で遊ぶ。 ・魚とりをする。 ○秋の自然に気付く。 ○落ち葉が片付いていることに気付く</p>	<p>○高幡不動尊のもみじやあじさいは、住職が気持ちを込めてお世話をしていることや、「みんなに楽しんでほしい」という願いがあることを知る。 ○夏で見つけた自然と変化があるのか考えさせる。 ○秋の自然を生かして遊んでいる児童を称賛する。 ○落ち葉や木の実等を使い工夫して遊んでいる児童を称賛する。 ○地域の誰かが安全に遊べるように環境を整えてくれていることを知る。 ◆友達と一緒に遊ぶと楽しいことに気付いている。 ◆公園や浅川、トンボ池の生き物を探したり、とったりしている。 ◆身の回りの自然や身近にあるものを利用して遊ぼうとしている。 ◆秋の自然を利用していることを自覚しながら遊んでいる。 ◆季節によって自分たちの遊びや生活の仕方が変わること気付いている。</p>
<p>5 冬の浅川・ トンボ池で 遊ぼう 12～3月</p>	<p>8</p>	<p>○冬における大木島公園や浅川、トンボ池であそぶ ・氷を割ったり、投げたりする。 ・魚とりをする。 ・おにごっこをする。 ・秘密基地をつくる。 ○冬の自然に気付く。 ○夏・秋・冬で楽しかったことを遊びマップにまとめる。 ○一年間楽しく遊べたのは、みんなが安全に遊べるように地域の方が協力をしてくださったことに気付く。 ○自分たちが遊んできた場所について、考える。 ○季節ごとにそれぞれの季節でしか楽しめない楽しい遊びがあったことに気付く。</p>	<p>○秋で見つけた自然と変化があるのか考えさせる。 ○冬の自然を生かして遊んでいる児童を称賛する。 ○氷や枯れ枝等を使い工夫して遊んでいる児童を称賛する。 ○安全に遊ぶためには、地域の方の協力が大切であることを知る。 ○自分たちも、自分たちの町の一員として大切にこの場所を使おうと考える。 ○自分たちの町や町を大切にしている人のことが好きになる。 ◆冬のトンボ池や浅川ならではの遊びを楽しんでいる。 ◆友達と一緒に遊ぶと楽しいことに気付いている。</p>

(3) ねらいにせまるための手立て

1) 教師の言葉掛け

「ネコじゃらしでモコモコできたよ」「バッタは、どこにいるんだろう」等子どもたちのつぶやきをひろい、「ネコじゃらし以外でもモコモコできるかな」「いいこと考えたね。自分がバッタだったらどこに隠れる？」という具合に子どもたちの活動を価値付けたり、考える視点を与えたりする。また、「〇〇くんすごいことに気付いたよ」と、子ども同士のかかわりを広げる。

2) 発見カード

楽しかった遊びや見つけた植物や生き物をカードに絵や文で記録する。自分の姿やその時の気持ちを吹き出しに書くようにすることで、自分の活動を振り返り、次の活動につながれると考えた。また、「～している時、どんなことを考えたの?」「この時、～って言っていたね」と個別に言葉をかけ、活動中の発見や気づきを価値付ける。

3) 発見したことや思ったこと、感じたことの交流会

活動で発見したことや、楽しかった遊びを交流し合うことで、気付かなかったことが分かったり、先の見通しがもてたりして「次にこうしたい!」「今度は～をしよう!」等という気持ちが湧いてくると考えた。

4) 夏からの発見や子どもたちのつぶやきをかかせ掲示

1年間の活動や子どもたちの思いを一つのコーナーにまとめて提示することで、活動を振り返ったり、季節の変化に気付いたりできると考えた。

5) 1年間の活動を遊びマップにまとめる

1年間の活動で楽しかった遊びや生き物との触れ合いをマップにまとめることで、視覚的に季節の良さやその場所でしか遊べない遊びに気付けると考えた。グループは大好きな場所ごとに集まったグループで、その場所が好きになった遊びや発見をグループでまとめていく。自分たちの一年間の活動をまとめることで、この地域をより好きになった自分に気付いてほしい。また、教師も季節の様子や遊びの様子を写真等に記録しておくことで、子どもたちが1年の活動を振り返るきっかけや季節の変化を感じる手がかりにできるようにする。

6) 子どもたちの「やりたい」を尊重し、繰り返し同じ場所に行き活動する

「次は何してみたい」「どこにいてみたい」等と、教師が主体になって活動するのはなく、子どもたちからでた「～にいてみたい」「次は～したい」という気持ちを大切にす。また、同じ場所や人と繰り返し関わる中でその対象の素敵なところに気付けると考えた。そのような活動を繰り返すことでその対象への愛着や親しみが高まっていくと考える。

3. 活動の様子

(1) 学区探検

学校探検を終え、学校の生活にも慣れた5月。自分たちの学区を探検し、楽しそうなところや行ってみたいところを見つけに行きました。

学区探検の後は、教室で行きたいと思った場所ややってみてみたいと思った遊びを発表し、教師が黒板にまとめる活動をしました。

(2) 6～7月は、5月の学区探検で見つけた楽しそうなところへ行きました。

初めは、遊具のたくさんあるリス公園に行きたいという声が多くありましたが、木陰や隠れる場所がたくさんある大木島公園や水辺の近くにあるトンボ池等、行きたい場所ややりたいことに少しずつ変化が出てきました。学区域にある高幡不動尊の「あじさい祭り」も見に行きました。



楽しかった遊びや見つけた発見を簡単なカードに記録し、みんなで交流し合いました。

交流し合うことで、子どもたちの「次は～したい」「今度は～をもっていこう」等と意欲がとても高まりました。



(3) 9～10月は、夏と秋が入り混じった季節。

肌寒い日もあり、トンボ池での遊びから浅川にある草地での遊びに少しずつ変わっていきましました。浅川の草地では、たくさんのバッタやコオロギを捕まえました。捕まえた生き物の飼い方を自分たちで調べ、教室で飼うこともしました。

何度か遊びに行くうちに、浅川の土手の草刈りをしてくださっている人とも出会うことができました。地域の人が見守っていて下さるから、みんなが安全に遊べるのだと勉強しました。



(4) 10～11月は、もみじが色づいてきた季節、高幡不動尊の「菊祭り」「もみじ祭り」に行きました。1学期の様子と随分変わっていることに気が付きました。

様々な遊びを通して、木の実がたくさん落ちていることや虫が少なくなってきたこと、葉の色がかわったこと、葉がたくさん地面に落ちてきたこと等、たくさんの変化に気が付くことができました。子どもたちは、自分で拾ったたくさんの木の実を自慢したり、見つけた木の実で遊んだり、夏とは違った遊びを満喫しました。



(5) 1～3月は、冬の遊びをしました。遊びの中心は、鬼ごっこ等校庭での遊びとほとんど同じでした。子どもたちのやりたいは、「雪遊び」「氷遊び」が中心でもあったので、教師側が意図して寒い中でも自然の遊びを活かした遊びが広がるよう意図的に活動をいれました。その一つがどんぐりクラブの方をお招きして行った冬芽の観察です。子どもたちは、冬芽探しに夢中になっていました。また、寒い日には霜柱等も見つけ、踏みつけて聞こえる音を楽しむ活動もしました。



4. 成果と課題

成果

- ①友だちとの交流や発見カードを通して、季節毎の楽しい遊びを見つけることができました。遊びと自然が子どもたちの中で結びつき、子どもたちにとっての身近な自然を活かすことができました。
- ②繰り返し同じ場所へ、満足いくまで遊ぶ活動を通して、身近な地域を大好きになる子が増えた。
- ③「～したい」と主体的になる子が増えた。また、主体的に活動できたからこそ、①②の成果とも繋がったのだと考える。

課題

- ①季節のタイミングと学校行事とのタイミングを合わせることが難しい。
- ②地域の人ののおかげで安全に遊べるということの理解が表面的にならないよう、手立てを工夫する必要がある。

(土方 瑠依)

(4)「むかしのくらし」

(第3学年 社会科)

1. 教材化の意図

3年生になり社会科の学習が始まり、自分の住んでいる町から日野市の農業や工場などについて学習した。農業では、給食で使われる農作物やいちご農家についても実際に見学をしたり、話を聞いたりした。また、工場については、新聞の印刷工場を見学した。地域の人達の多くが生産や販売に関わり、日々のわたしたちのくらしを支えていることを学ぶことができた。3学期の社会科では、「むかしのくらし」について学習する。子供たちが置かれている環境は何でもお金を出せば手に入れることができる。電気や水道やガスを使うことがあたり前の生活を送っている。そこで、これらのものがない昔は、どのような暮らしをしていたのか、また、どのような道具を使っていたのかを調べたり、実際に使ったりすることで昔のくらしを考えることができると考えた。これらのことを古い道具発見カードにまとめ、実際に道具を使用して生活をしてきた方のお話を聞く学習をしていく。実際に見たり聞いたり触ったりする活動から昔の人の知恵や工夫などに気付くことができると考えた。豊田の町が今まで辿ってきた歴史にも触れ、歴史を刻んできた写真を活用し、「むかしのくらし」を考えるきっかけを作っていきたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
○日野第二小学校が辿ってきた歴史などを写真から読み取り、昔と今のくらしの違いについて関心を持ち、意欲的に調べようとする。 ○昔の道具を使っていた頃の人々の暮らしに関心をもち、昔の道具の使い方や昔の暮らしの様子を意欲的に調べ、地域社会のよりよい発展について考えようとしている。	○地域の人々の生活の今昔の違いや変化、人々の生活の知恵を考え、適切に表現している。	○郷土資料館にある昔の道具を観点に基づいて観察したり、郷土資料館の人や家の人、地域の人から話を聞いたり、写真などの資料を集め、調べたことを絵カードや年表などにまとめている。	○昔と今の道具の違いに気づき、道具が変化してきたことやそれにもなつて人々の生活も変化してきたこと、道具の工夫や生活の変化には、暮らしをよりよくしようとする人々の願いや努力があったことを理解している。

(2) 単元の指導計画 (12時間)

	学習活動	指導上の留意点	評価
つかむ②	<p>◎昔と今のくらしのちがいを知ろう。</p> <p>◆2枚の食事の写真を見ることで昔と今のくらしの違いについて興味をもつ。</p> <p>◆道具を見たり触ったりして、興味をもつ。</p>	<p>①昔の写真を見て、気づいたことを発表し、どのように変わってきたのかを写真の背景とともに現在との違いについて考える。</p> <p>②昔の道具を見て、気付いたことを発表し、昔の人の道具への思いや工夫などを考える。</p>	<p>○昔と今のくらしの違いやどのように変化しているのかに関心をもっている。(関・意・態)</p> <p>○昔の道具に関心をもっている。(関・意・態)</p>
追究する⑧	<p>◎郷土資料館にある道具を触ってみよう③④⑤</p> <p>◎昔の人の生活を体験してみよう。⑥⑦</p> <p>七輪でおせんべいを焼こう</p> <p>◆昔の道具を見たり、使い方の説明を聞いたりして、道具の働きについて理解することができる。</p> <p>◎地域の方のお話を聞いて昔と今の生活のちがいを知ろう。⑧⑨⑩</p> <p>◆昔の道具を使うことで、道具の工夫や生活の変化について考える。</p> <p>◆昔の暮らしと今の暮らしの違いを考えることができる。</p>	<p>・昔の生活で使われていた道具などを見たり触れたりして分かったことをカードに書く。</p> <p>●道具の名前</p> <p>●使われていた時代</p> <p>●用途など</p> <p>・昔の道具を実際に使ってみて、気付いたことや使い方をまとめておく。</p> <p>・昔の道具や生活を調べ、絵カードや年表にまとめ、今の生活と比べる。</p> <p>○ゲストティーチャーの話を聞き、絵カードや年表にまとめる。</p> <p>●郷土資料館の学芸員</p> <p>●地域のお年寄りなど</p>	<p>○昔の道具について調べ必要な情報をカードにまとめている。(技)</p> <p>○昔の道具の使い方や当時の生活の工夫を考え、調べたい課題を見付けている。(思・判・表)</p> <p>○昔の道具の変化から生活の変化について必要な情報を集め読み取っている。(技)</p>
まとめる②	<p>◎昔の人々の生活の工夫や生活の移り変わりを考えよう⑪⑫</p> <p>◆昔の道具について調べたことを発表し、生活の移り変わりについて考えることができる。</p>	<p>○絵カードや年表をもとに、いろいろな生活の工夫や努力について発表し、今の生活との違いについて考える。</p> <p>・七輪で焼くと、おいしいけれど火をおこすのに時間がかかることが分かった。</p>	<p>○地域の人々の生活の変化が人々の願いや努力によるものであることを理解している。(知・理)</p>

3. 活動の様子

(1) 昔の写真から考える



導入では、日野第二小学校開校140周年記念誌を用いて、昔の暮らしについて考えました。記念誌には、日野第二小学校の昔の校舎や行事などいろいろな写真が掲載されています。児童は、それらの写真を見て、今と昔の暮らしの違いを考える手がかりにしました。

☆どのような食事の様子なのかを考えました。



この写真には、どのような道具があるでしょうか。



見たことがあるけれど名前が分からない。



見つけた道具に印を付けていきました。



○児童が発見したこと

- ・ 畳や障子がある。
- ・ 簾がかけてある。
- ・ 浴衣のような物を着ている。
- ・ 炭酸飲料が置いてある。
- ・ 酒のつまみが置いてある。
- ・ スナック菓子がある。
- ・ 座椅子と座布団がある。
- ・ 黒電話を使っている。
- ・ 半纏を着ている。
- ・ 電気に紐がついている。
- ・ ハエたたき
- ・ 布団たたき
- ・ 火鉢があり、上には、やかんがある。

(2) 昔の道具に触ってみる

昔の暮らし

学習目標 昔の道具を見たりさわったりして分かったことを絵カードにまとめる。

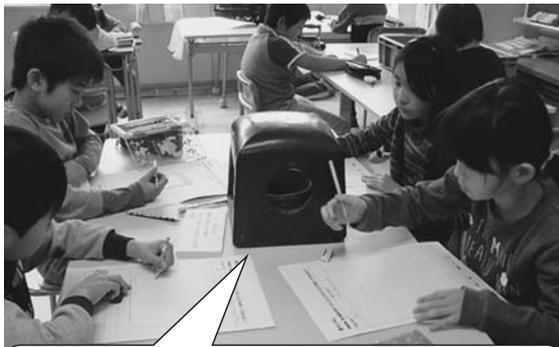
【道具の名前】 あんか	【使われた時期】 昭和20年ごろ
----------------	---------------------

このあんかは書いていないけどはこの中にはすみが入っていてふとんの中に入れるとあたたかくなる。火がつかないからあんせんた昔の人たちは頭が火でかいてならないようにふとんをいれるのがあった



雑魚笥 (ざっこと)

入口は大きいのに、奥にいけばいくほど狭くなる仕組みに手を入れて確認していました。これで本当に魚が獲れるのかという声が多かったです。



あんか 今回のあんかとは、形も大きさも違い、あんかの重さにも驚きました。中に炭を入れて布団の中に入れると布団が燃えてしまうのでは。また、これで本当に温かいのかといった疑問が出ました。



たらいと洗濯板 一枚一枚洗濯板を使って洗っていたことを知り、時間がかかったことや冬場手が冷たいのでは、ということに気付いていました。



火鉢 温まるまでに時間がかかってしまうことやこれで温くなるのかといった感想をもちました。



はがま 何度も使ったことが分かる道具でした。昔の人は物を大切にしていたことが分かった。

(3) 七輪でおせんべいを焼こう



炭に火をつけるのは簡単だと思っていました。でもいざやってみるとすごく難しくぜんぜん火が燃え移りませんでした。



新聞、わりばしで火がついたら炭を入れました。うちわであおいでいるとだんだん火が大きくなりました。



火の火力が強くて軍手をつけていても熱かった。昔の人はチャッカマンを使わないでマッチなどでやっていたのでとても苦労したのだと思った。



焼き方は、10秒くらい焼いて裏返す。何度もやっている内に透明なところが消えてきたら、しょうゆをつけ、20秒くらいでひっくり返しておせんべい完成。焼き方が分かった。



おせんべいがこげたり、しょうゆをつけるのが早かったりいろいろ大変だったけど、慣れてくるとおいしく焼くことができました。

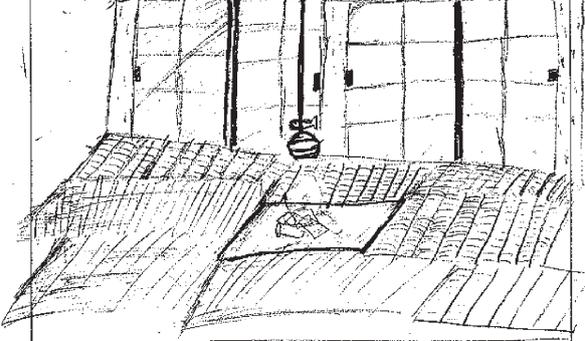


炭に火をつけるのが思ったより大変だった。一度火がついたけどきえてしまった。火をおこすのはとても大変だった。

(4) 地域の方から昔の生活について話をうかがおう



(5) 豊田地域の人たちがどのような生活を送っていたのかを考える

<p>柱 家とさえる物昔はこれがある家はかなりお金かいるらしい</p>	<p>・田んぼがいっぱいあった。(米) 昔はあさ川がきれいな水で道具を使って魚をとっていた。</p>
<p>たたみ 日本で昔からある物一つ作るのがものすごく時間がかかるとねだんが深い</p>	<p>↓ 「ざらごと」→1度魚が入るともどれなくなる道具。 自分たちで魚をとりに行ってとれた魚をもちかえて食べた。</p>
	<p>昔は今の家とはちがった。 今の家はじょうぶだけど昔の家は今よりじょうぶではなかった。 ・ガスがなければころは炭に火をつけるのにととも太へんびつかれる。</p>
<p>いすり/こつで魚ほどをやりたり温たあたりする</p>	
<p>しょうじ これも日本の昔からある物四角でくがてある所</p>	

5 成果と課題

(1) 成果

- 開校140周年という記念すべき年であったということもあり、記念誌を用いて、昔の暮らしを考えるきっかけを作ることができた。
- 昔の道具を見たり、触ったりする体験を持つことで、昔の人の道具への思いや知恵などを知ることができた。
- 昔の道具を使ってみようでは、火をおこす大変さを身を持って体験することができた。
- 活動を通して、地域を身近に感じたり、大切に思う気持ちが見られたりした。

(2) 課題

- 児童の祖父、祖母の年齢に合わせて、道具を厳選するのが難しかった。

(小池 潤子)

参考文献 140年のあゆみ 開校140周年記念副読本 日野第二小学校 平成26年
「わたしたちの日野」日野市教育委員会 小学校社会科副読本 平成26年
「郷土日野」指導事例 第9集 平成25年

(5) 七小学区域の特色をしらべよう！

(第3学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本校は、JR日野駅から南（八王子方面）へ線路沿いに徒歩で10分、日野台地にある。本校の周囲は、急速に住宅が増え、緑は少なくなりつつある。しかし、屋上に上がると、南から西にかけて日野消防署、中央公園、実践女子大学、北から東にかけては都営住宅、日野市役所、市民会館、新選組のふるさと歴史館等が見られる。市の主な施設が集まっており、大学や高等学校も近い距離にある文教地域でもある。こうした大きな施設が集まっているのは、この地域に広い土地があったためである。この地域は、畑や原野を切り開いて造成された新興住宅地帯で、都営住宅・分譲住宅も多い。

これまで、社会科の学習で、七小の屋上からの風景を観察したり、学区域の地域めぐりをしたりしてきた。さらに今回、総合的な学習の時間で、航空写真や地図を提示する中で、児童の中に地域に対する新たな関心や疑問が芽生え、児童の主体的な探究活動につながるのではないかと考えた。調べ学習を通して学んだことをまとめていく中で、自分たちの住んでいる地域の特色に気付かせたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・七小や地域（神明、大坂上）の歴史、公共施設（市役所、市民会館、消防署）、日野駅について自ら課題を見つけ、地域の歴史的な変遷について調べる活動を行うことで、この地域の特色を理解させ地域への親しみと愛情を育てる。

(2) 単元の指導計画（全5時間）

過程	時	主な学習活動・学習内容	資料（・）・評価（○）
導入	1	・航空写真・地図を比較させ、学区域の土地の変化について考える。	・昭和30年、40年、現在の学区域の航空写真 ○現在と過去の地図を比較し、土地・地名の変化について気づいたことや疑問に思ったことを交流しているか。
	2	・屋上からの写真や地域めぐりをふり返り、疑問や知りたいことを整理し、課題を決める。	○これまでの学習から、疑問や知りたいことを整理し、課題を決められているか。 ・屋上からの各方面の写真と地域めぐりで作った新聞

	3	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに課題解決の方法を話し合い、学習の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合い、学習の計画を立てられたか。また、自分の課題に対する考えをまとめているか。 ・学習計画カード
展 開	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために、必要な情報を収集する。 (七小と日野駅の歴史、神明と大坂上の名前の由来、市役所と実践女子大の歴史と開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ・七小20周年冊子 ・郷土資料館や地域の方に話を聞く機会を設定する。 ○調べたい事柄の情報を集めることができたか。
	8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> まとめかたを知り、分からないことや新たな疑問については調べたことを進め、マップ作りを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことをわかりやすくまとめることができたか。 ・友達の発表のどのような点が良いかを見つけながら聞くことができるようなシート
ま と め	10 ・ 11	<ul style="list-style-type: none"> マップをもとにして発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたいことを分かりやすく発表することができたか。
	12	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域や歴史に対する自分の理解や考えを深めることができたか。

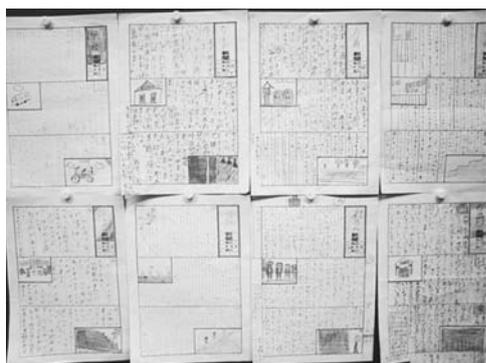
3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

現在と60年前の航空写真・地図を比較して、学区の変遷の様子について調べ、まとめる。

	主な学習活動	資料（・）評価（○）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の航空写真を比較し、七小ができるまでの土地の様子について見取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市の地図（昭和30年、40年） ○学校ができる前は、桑畑が一面であったことを読み取っているか。（発言）
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそこに七小ができたのか、開校当時の様子はどうだったのか自分の予想をたてる。 「富士山が見える土地を選んで神明社に近いところに街づくりが進められた。」 「五小や一小の近くの畑やたんぼに家がどんどん建てられて、教室が足りなくなったから。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真の情報をもとに、自分の予想を立てているか。 ○日野市にとって、どうして新たな学校が必要であったのかを考えているか。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">七小の開校の様子について読み取り、まとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・開校当時の様子を読み取り、ワークシートに記入する。 「都市化が進み、人口がどんどん増えた背景があった。」 「児童数が増え、教室も足りなくなったので、多摩平と日野本町の中間台地である神明に学校が立てられた。」 「日野市で13番目にでき、台地の上の畑や野原に囲まれた小さな学校だった。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・七小20周年誌の情報
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・開校当時の様子について気づいたことや疑問におもったこと、今後調べてみたいことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開校当時の様子について知り、疑問に感じたことやもっと知りたいことについて考えることができるか。（ワークシート）

4. 資料



社会科の地域めぐりで新聞にまとめた。まとめることで日野駅があり、商店街が広がっていて栄えている方角は北側ということに気づくことができた。市役所と中央公園があり緑が一番多い方角は東側で、実践女子大学があり、住宅が広がっているのは西側だということに気づくことができた。

<昭和30年代の日野市の地図>

住宅地が少なく、全体的に桑畑が多い。



(註2)

<昭和40年代前期の日野市の地図>

昭和の日野市を牽引した日野五社も見られる。



(註2)

<平成7年の七小学区の地図>

現在の市役所や実践女子大などの公共施設が見られる。



(註2)

<開校当時の七小（昭和48年）>



(註1)

開校された当時の学区は、宅地開発による都市化が進み人口もどんどん増えて、10万人をこえるほどになった。多摩平にある五小や、日野本町にある一小の近くの畑や田んぼには住宅が次つぎと建てられていった。児童数も増えて教室も足りなくなった。日野市のほぼ中央に位置し、多摩平と日野本町の間台地である「神明」に学校を建てることになった。校庭には、ティフトーフ（洋芝）が植えつけられ、多摩地区で初めての試みとなった。

<日野駅（昭和12年頃）>



甲武鉄道（現JR中央線）が通るようになったのは明治22年である。そのため、人や馬が甲州街道を通ることが少なくなり、今まで多摩川の手前の宿駅で人々に利用されていた日野宿が役割を果たさなくなってしまった。甲武鉄道は、なるべく人家の少ない畑や雑木林を通して、安く土地を買い取るように選ばれた。その後、明治23年1月6日に日野駅は開かれることとなった。今の駅舎になる前は、今の位置より西の旧甲州街道のそばに駅、ホームがあった。（写真 日野市郷土資料館 提供）

<神明社（右の奥に社がある）>



七小がたっているあたりは、神明とよばれている。この神明という地名は、1570年に建てられた神明社という神社の名前からとったものである。神明のあたりは桑畑だったが、昭和40年の区画整理で、広がった畑は大きな道路や建物にどんどん変わっていった。いまでは、大坂上中学校・日野台高校になっている。大坂上も畑は多かったが、大きな工場や都営の住宅はもうできていた。

(註1)

<市庁舎>



旧庁舎は、昭和29年建設され、当時の人口は、約2万人で職員数も80名ばかりであった。その後、人口が6倍、職員数13倍を越すようになり、庁舎の分散も余儀なくされるようになった。また、今後飛躍的な発展が予想され、新庁舎建設の必要がせまられた。そして神明上に市民の利便と行政機能が十分に果たせるように建設された。

(註4)

<実践女子大学>



国の経済成長が進むに従って、女子の大学志願者が激増した背景があり、その結果広大な日野の土地に校舎及び学生寮を建築した経緯がある。

(註3)

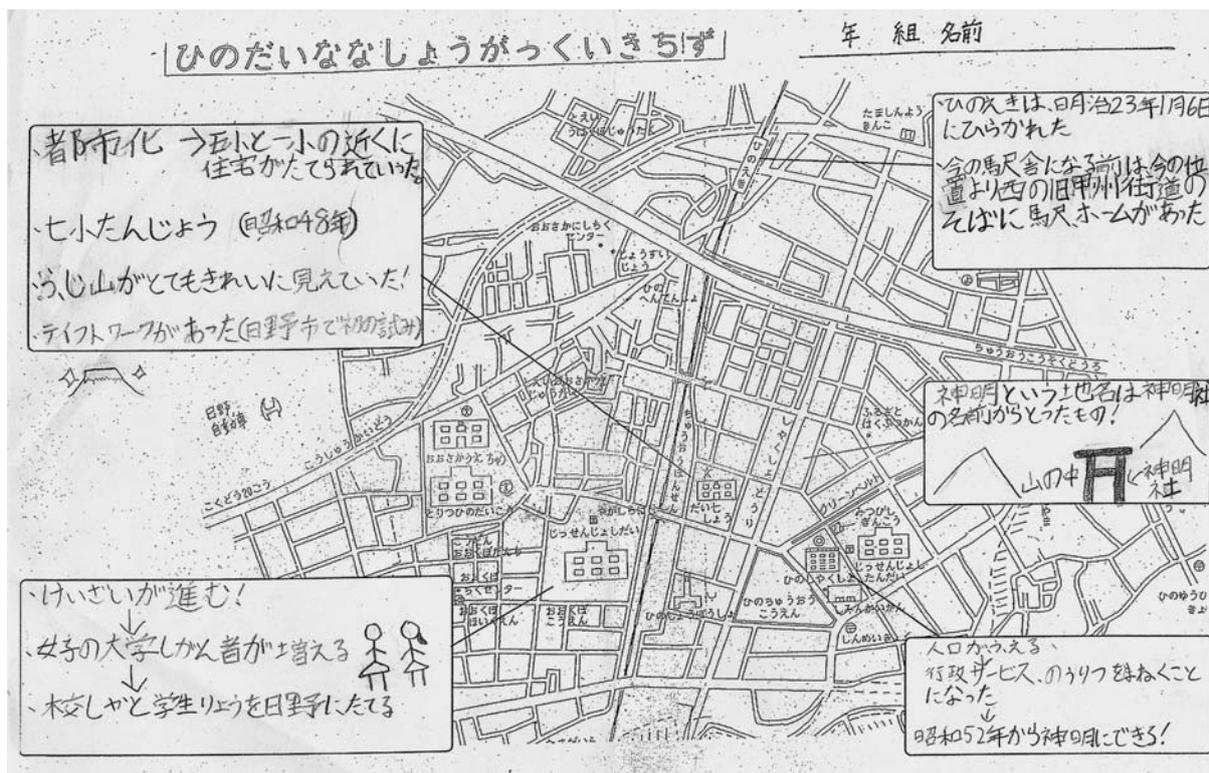
5. 活動の様子

【資料で学んだことをもとに、七小の開校当時の様子を書いた】



当時の校庭には、芝生（テイフトワーク）があった。また、富士山がとてもきれいに見えていたというのが特徴です。

【学習のまとめ】



子供一人一人が学んできたことを整理して地図にまとめることができ、調べたそれぞれの場所についての理解が深まった。

6. 成果と課題

(1) 成果

- ・自分たちが生まれ育った地域について学ぶことで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・また、各年代の日野市の地図を比べながら見取っていく中で、子供たちの関心や疑問を深めていくことができた。
- ・「自分の学校の当時の様子を知ることができた。自分が住んでいる地域のこともっと知りたい。」等、地域への理解と愛着が見られる感想があがった。

(2) 課題

- ・調べ学習をする際、資料を読んで理解するのが難しかったり、資料が限られたりしていた。
- ・まとめたものをどのようにして発表すればより効果的なのか、再考の余地がある。

参考資料

- 註1：日野市立日野第七小学校「開校二十周年記念誌」1994年
- 註2：日野市ふるさと博物館紀要 第五号 1995年度 日野市教育委員会
- 註3：実践女子学園100年史 平成13年
- 註4：市政概要 昭和56年12月発行
- 註5：日野市史史料集 行財政編 昭和51年

(中島 康治)

(6) 「学区の教材化」郷土の歴史と開発 ～多摩平と六小～

(第4学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

本校は、今年で開校50年を迎えた。開校当時の写真や地図を見ると、地域の歴史や開発について読み取ることができる。また、多摩平団地の完成をきっかけに人口が急速に増え、六小の開校に至ったとも言え、多摩平の発展と六小のつながりは深いものと考えられる。半世紀を生きた六小の歴史を振り返るきっかけとして、六小について調べるだけでなく、多摩平の歴史と開発について学習することは児童一人一人の今後の生活にとって有意義であると感じる。

今回の総合的な学習の時間では、航空写真や地図を提示したり、地域の自然と歴史に触れたりする活動を行う。また、地域の方や六小卒業生の方から、当時の多摩平や六小の様子について話を伺う機会を設ける。そこで児童は多摩平や六小についての歴史と発展の移り変わりについて知ることになる。それと共に、新たな関心や疑問、調べてみたいことが芽生え、児童の主体的な探求活動につながるのではないかと考える。友達と協同して学習課題について探求し、自力解決できる力を伸ばしていきたい。そして、人口増加で発展していく中でも豊かな自然が守られていること、ストーン牧師という偉人が存在していたこと等、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさに改めて気づき、地域を大切にすることを育てていきたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

- ・六小や多摩平団地、多摩平の森の歴史と開発について学び、ストーン牧師や地域の人々の多摩平に対する想いについて知る。
- ・知りたいことや深めたいことについて、本やインターネット、取材などで調べたり、友達と協同して調べたりする活動をすることで、学び方や協同的に取り組む態度を育てる。

(2) 単元の指導計画 (全20時間)

	時	主な学習活動	資料 (・) 評価 (○)
みんなで追究する	1 ・ 2	1. 自然体験活動をする。 ・六小には、どのような植物があり、どんな様子か観察する。 ・校内にはたくさんの種類の木々があり、自然が豊富であるということを知る。	○自然体験活動を通して、六小の自然は長い年月をかけて育てていることについて気付いている。
	3	2. 校章から身近な木について関心を高める。 ・校章のデザインを想起して描く。 ・実際のもの比べて修正する。 ・校章の由来、校章に込められた思いについて感じたことを話し合う。	○デザインに込められた願いに触れ、メタセコイアと学校との関係について書いている。 ・日野第六小学校 開校四十周年記念誌

4	<p>3. 校歌から六小の開校当時について関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校歌の歌詞を見ながら、当時の様子を類推し、絵に表す。 ・表した絵から、校歌に込められた作詞者の思いや、開校当時の様子について考えたことを交流する。 	<p>○校歌の歌詞から、六小の児童に対する期待や当時の地域性について気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野第六小学校 開校四十周年記念誌
5	<p>4. 航空写真・地図から、多摩平の土地の変化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の航空写真を比較し、土地の使われ方について気付いたことを話し合う。 ・現在と過去の地図を比較し、読み取ったことをワークシートに記入する。 ・六小付近の土地・地名の変化について気付いたことや疑問に思ったこと、今後調べてみたいことを交流する。 	<p>○現在と過去の資料を読み取り、土地の使われ方・地名の変化について気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六小、多摩平地区の航空写真パネル（昭和43年、平成元年） ・六小、多摩平地区の地図（昭和20年、昭和39年、平成19年）
6	<p>5. 多摩平の森に住んでいる方から話を伺い、多摩平団地の移り変わりや、多摩平の森に対する思いについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩平団地から多摩平の森への移り変わりの様子について知る。 ・紙芝居を聞き、多摩平の森の由来とストーン牧師の生涯について知る。 ・多摩平の森の自然に触れ、六小と同じ様に自然が豊富であること、自然が守られていることに気付く。 ・地域の方から教わったことや多摩平の森に触れたことについての振り返りを書く。 	<p>○多摩平団地・多摩平の森、ストーン牧師について関心をもち、ストーン牧師や地域の方によって自然が守られていることに気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居「多摩平の森とストーン牧師」
7	<p>6. 六小の卒業生の方から話を伺い、六小の当時の様子や、地域に対する思いについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の六小の様子について知る。 ・卒業生の方の、地域に対する思いを知る。 ・六小の話を聞いた感想や知りたいこと、今後調べてみたいことを書く。 	<p>○当時の六小の様子や現在までの移り変わりについて理解し、卒業生の方の六小への思いや期待について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の方の卒業アルバム

まとめの題材を明確にする	8	<p>6. これまでの学習を振り返り、学習のまとめの題材を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・六小と多摩平の歴史や自然、開発について、もっと深めてみたいことについて考え、まとめの題材を決める。 	○これまでの学習から、疑問や知りたいことを整理し、まとめの題材を決めることができる。
	9	<p>7. 題材の深め方・まとめ方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深めたい題材について調べる方法を話し合い、まとめの計画を立てる。 	○まとめの題材についてどのようにもっと深めまとめていくか、学習の計画を立てている。
題材について深め、まとめる	10 ・ 11 ・ 12	<p>8. 調べ学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために、必要な情報を収集する。 <p>(多摩平団地と六小の歴史、多摩平の森と六小の自然、豊田駅周辺の歴史と開発、校章・校歌に込められた思い)</p>	<p>○テーマに沿った資料を見て調べたり、友達と協力したりして、深めたい題材についてまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフト「市制施行と多摩平団地」(郷土資料館) ・日野第六小学校 開校四十周年記念誌 ・「ふるさと日野」(日野市制施行50周年記念写真集 郷土出版社)
	13 ・ 14 ・ 15 ・ 16	<p>9. 調べたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめかたについて知る。 ・プレゼンテーションソフトを使い、調べたことをまとめる。 ・分からないことや新たな疑問については調べを進め、協力して完成させる。 	<p>○調べたこと、伝えたいことについて、プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく正確にまとめている。</p> <p>○テーマに沿った資料を見て調べたり、友達と協力したりして、深めたい題材についてまとめている。</p>
交流し、広げる	17 ・ 18 ・ 19	<p>10. 多摩平と六小の歴史と開発についての発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習をする。 ・話し方や資料の示し方を工夫して、まとめたことを発表する。 ・感想を交流し、単元についての理解を広げる。 	○伝えたいことを分かりやすく発表している。
	20	<p>11. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の感想を書く。 ・感想を交流する。 	○地域や六小の歴史について知り、地域の方の思いに対して今後自分がどのように学校生活を送っていくか、自分の考えをもっている。

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

現在と過去の航空写真・地図を比較し、多摩平の土地の使われ方の変化について知り、疑問に感じたことやもっと知りたいことについて考えることができる。

(2) 本時の展開 (5/20時間)

	主な学習活動	資料 (・) 評価 (○)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の航空写真を比較し、土地の使われ方について気付いたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土地の使われ方について、変わらないところ、変化しているところについて読み取っている。(発言)
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学区域の地図を比較して、まちの移り変わりの様子を読み取ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の地図を比較し、読み取ったことをワークシートに記入する。 「地名が芝山から多摩平に変化した。」 「昔は畑が多く、今は家や店が多い。」 「キリスト教の農場があったが、今は公園になっている。」 ・まちの様子が変化した理由や疑問についてまとめる。 「人が増えたから家が多くなった。」 「多摩平団地や六小ができたのはなぜか。」 「当時の生活の様子はどうだったのか。」 ・地図から昔の様子を類推し、絵に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・六小、多摩平地区の航空写真パネル (昭和43年、平成元年) ・六小、多摩平地区の地図 (昭和20年、昭和39年、平成19年) ○現在と過去の資料を読み取り、土地の使われ方・地名の変化について気付いている。(ワークシート)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・土地・地名の変化について気付いたことや疑問に思ったこと、今後調べてみたいことを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多摩平の土地の使われ方の変化について知り、疑問に感じたことやもっと知りたいことについて考えることができる。(ワークシート)

4. 資料

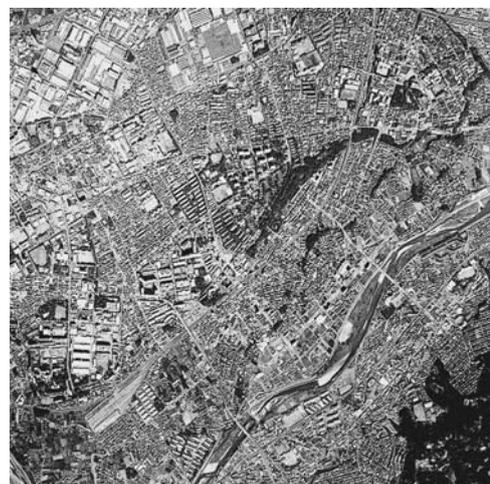
【多摩平団地（多摩平の森）】

- ・戦後の住宅難解消のために、多摩平団地が完成した。多摩平という地名は日本住宅公団が開発した土地に「多摩平」と名付け、昭和40年の町名地番変更で誕生した。「富士の見えるニュータウン」「明るく開放的な緑にあふれた団地」をキャッチコピーとして誕生した。第一次入居は昭和33年から行われ、住むために抽選が行われ、大変人気だった。ステンレスのキッチンや上下水道完備等、当時としては最先端の「文化住宅」だった。
- ・多摩平団地ができた頃は自然が多く、蟬取りをしたり自然の中で木登りをしたりして遊んでいた。豊田駅までの道のりが未舗装のため、長靴を履いて駅まで向かい、革靴に履き替えたという話もある。多摩平団地ができたことにより、住宅や店が増え、駅前も整備されていった。
- ・再開発は1997年の多摩平団地の建て替えで始まる。コンセプトは①緑・環境と共に生きるまち②歩いて暮らせる安全安心のまち③にぎわい・活力ある多世代共生のまちの3つが出された。住民の願いにより、ストーン牧師が愛した多摩平の森が地域のために残されることになった。

<航空写真 昭和22年（1947年）>



<航空写真 平成17年（2005年）>



【豊田駅周辺】

- ・多摩平名店街、多摩平一番街等の商店街や、新生ストアー、伊勢丹ストアー、丸井、西友など、買い物に便利なまちである。
- ・時代の移り変わりと共に、商店街からスーパー、大型商業施設へと、街の様子が変化している。
- ・昭和35年、多摩平団地の誕生を記念して、駅前にかどでの像が設置された。駅前ロータリーの整備により、現在は多摩平第一公園に移されている。

【六小の歩み】

- ・昭和39年、五小の分校、芝山分校として誕生した。昭和38年の日野市制施行後、最初に開校された学校である。その後、宅地化が進められ六小の児童数が多くなり、学区域が変わった。昭和46年に滝合小、昭和52年に旭ヶ丘小が開校している。
- ・校章には、①児童がメタセコイヤのようにたくましく育つように②日野市が市制をしいて最初に開校された記念に、の2つの意味が込められている。
- ・校歌の歌詞を読むと、「空気が澄んでいる」「山がよんでいる」等、自然豊かな様子がかかっている。「仲良し」「元気」「たくましく」「考える子」等、六小児童に対する想いが込められている。

<地図 昭和20年（1945年）頃>

学校便りの名前「しばやま」の地名が読み取れる。（1万分の1地形図 豊田）



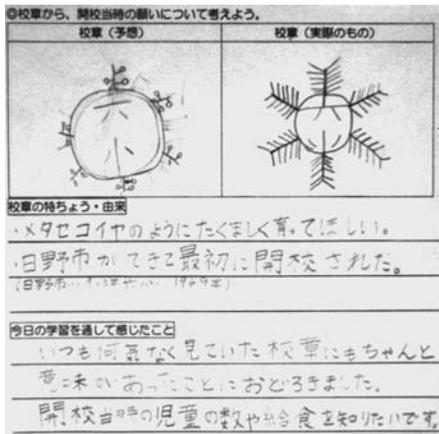
<昭和40年（1965年）人文社発行地図>

住所が多摩平に変更されている。住宅が多くなっている。



5. 活動の様子

【校章・校歌から開校当時の願いを知り、様子について類推する】



校章には、メタセコイヤのようにたくましく育ってほしいという願いが込められていることを知りました。



校歌から、当時の様子を類推しました。「とんびが飛んでいる」「山がよんでいる」等、自然が豊かです。

6. 成果と課題

- ・ 普段何気なく生活している地域について改めて学ぶことで、意欲的に学習に取り組めた。多摩平の森への想いについて知った後に、実際に足を運ぶことで、地域の素晴らしさを実感できた。また、どうして地域の方がみんなのために話をしてくださったのか考えながらお礼状を書いた。「地域の方に会ったら元気よくあいさつをしたい」「何気なく疑問に感じていたことにも意味があることが分かった。小さな疑問も調べて、学びを深めていきたい」「六小や多摩平がますます好きになった。これからも地域を大切にしていきたい」等、これからの生活に生きる感想があがった。
- ・ 調べ学習の際、書籍やインターネットなど、読んで理解するのに難解であったり、資料が限られたりしていた。教材を精選したり、はじめに教師が分かりやすく説明したりする必要がある。

7. 参考文献

- ・ 日野市立日野第六小学校「開校四十周年記念誌」平成17年
- ・ 多摩平の森緑地内にある紙芝居「多摩平の森とストーン牧師」
- ・ プレゼンテーションソフト「市制施行と多摩平団地」（郷土資料館編集）
- ・ 「ふるさと日野」（日野市制施行50周年記念写真集 郷土出版社）
- ・ 日野市広報（昭和39年5月20日、8月28日、平成26年12月1日）

（鈴木 信之）

(7) 幼稚園児との交流を通し、学校や地域への理解を深める

(第5学年 総合的な学習の時間)

1. 教材化の意図

少子化や核家族化などの影響から年々子供たち同士のかかわりが少なくなっている。とりわけ、地域の異年齢同士でのコミュニケーションは希薄になりつつある。そこで、幼稚園の子供たちと積極的にかかわるような活動をこれまでも意図的に計画してきた。

これまでは、地域のお店の協力を得ながら「仕事体験」をしてきた。そこから、日野市で働く人々の、地域の人々の仕事に対する思いや願いを知ることができた。他にも、日野市内の「老人ホーム」を訪れ、どうしたらお年寄りに楽しんでもらえるのかを考えながら、交流を行った。

そして、今回の交流は5年生自身がより積極的にかかわることをねらいとして「幼稚園児との交流」を計画した。日野第一小学校は、お隣に「第三幼稚園」がある。建設から60年以上の歴史をもつプールなどの施設を一緒に使ったり、卒園後には多くの園児が一小に入学してきたりするなどこれまでも交流してきた。しかし、園児の思いを受け止め、5年生として活躍する場面は少ない。そこで、来年度新6年生として下級生をお世話する前に、自分たちとしてやるべきことを今年度中に経験させたい。そして、こうした取り組みを通し、学校や地域への理解を深めさせることとした。

一小は昨年度「140周年記念式典」を行ったり、校舎内に「140周年記念展示スペース」があったりするなど、児童自身にとっても歴史がある学校であるということは認識している。また、園児が利用してきた一小のプールが市内で最も古かったり、92周年に作られた自然園には周辺用水に棲む生き物がいたり、かつてはそこほこに見られた水車も存在する。学校の周りでも、放課後には「日野宿交流館」「かわせみ館」「児童館」「図書館」などの施設で活動したり、「新選組」で有名なまちであることを知っていたりする。それらの施設を活用しながら、園児をより理解するために「遊び交流」を行い、その後「昔遊び」を通じて、古きを知っていく。

一小の特色と地域への理解へとつなげていくために、日野市に対する知識を児童自身が改めて認識し直すとともに、それをこれから入学してくる新1年生に対して伝えていくことを通じて、郷土への興味・関心を育てていきたい。

2. 指導計画

(1) 単元のねらい

学び取る力	園児とふれ合うときには、実態や願いをもとに交流を進め、相手の立場を考えながら活動することができる。
協力する力	グループの仲間や園児と意見を交換したり、情報を得たりしながら、学校や地域の特色を紹介していくことができる。
伝える力	自分たちが考える学校や地域の特色をまとめ、園児に伝えることができる。
地域を考える力	自分たちが通っている学校と住んでいる地域の特色について考えることができる。

(2) 単元の指導計画 (20時間)

	ねらい	学習活動	必要な物
つかむ (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○園児とのこれからの交流の流れを知り、幼稚園訪問の準備をする。 ○幼稚園を訪問し、園児への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児とのこれからの交流の流れを知る。 ・どの園児と同じグループなのか確認をする。 ・園児にあげるためのプレゼントや名札を作成する。 ・お互いに自己紹介をし、プレゼントや名札を渡し、幼稚園の中で一緒に遊ぶ。 ・今日の交流の感想やこれからやってみようことなどを園児に尋ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の名簿 ・プレゼント ・園児の名札 <p>1回目の交流</p>
追究する (10時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校のことを園児に紹介する準備を行う。 ○園児に学校案内をする。 ○「遊び交流」の計画を立てる。 ○園児と「遊び交流」を行う。 ○園児とともに「昔遊び」を行う。 (本時) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の交流の振り返りをする。 ・園児に学校のどんな場所を紹介したいのか考え、紹介する順番や方法を決める。 ・自分たちで決めた<u>紹介したい場所</u>の案内をする。(①プール②自然園③130周年碑など) ・今日の交流の感想を言い、学校や地域のこと気付く。 ・2回目の交流の振り返りをする。 ・クラス全体で、自然園や校庭を使って、園児と一緒に遊べそうなことを話し合う。 ・グループごとに計画内容を発表し、意見交換をする。 ・計画内容を再検討し、準備をする。 ・今日の交流の流れを確認する。 ・自然園や校庭を使って、グループごとに「遊び交流」を行う。 ・今日の交流のまとめをする。 ・「遊び交流」を振り返り、「昔遊び」の遊び方を考える。 ・「昔遊び」の準備や練習をする。 ・実際に園児とともに「昔遊び」を行う。 	<p>2回目の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内の地図 ・昔のプールなどの写真 <p>※交流館や郷土資料館と連携し、園児と一緒に遊べそうなものについて相談してみる。</p> <p>3回目の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに使う道具 ・お店の看板 <p>4回目の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに使う道具 ・お店の看板

まとめる (6時間)	○園児に対して学校や地域のよさを伝えるまでの流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての交流の振り返りをする。 ・事前に考えたためあてをもとに、活動をまとめる。 ・園児に対しての案内状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内状
	○体験してきた内容をグループごとにまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のよさや歴史などどんなことを園児に伝えたいのか話し合う。 ・発表で必要なものの準備をする。 ・発表原稿を作り、練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・140周年記念ホールに展示してある写真
	○幼稚園交流で学んだことを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「発表会」を行う。 ・活動を終えて、地域の方々とかかわることのよさや楽しさについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に使う模造紙など

★5年生から出てきた「園児に伝えたい日野一小のよいところ」

- ・140年もの歴史がある
- ・桜の木が大きい
- ・自然園があり、遊ぶこともできる
- ・給食がおいしい
- ・校庭が広い
- ・6年生になると日野囃子を行う

★5年生から出てきた「園児に伝えたい日野のよいところ」

- ・新選組が有名である
- ・自然がたくさんある
- ・日野用水が流れている
- ・にんじんなどの野菜やブルーベリーなど、おいしいものがたくさんとれる

3. 本時の学習 (14・15/20)

(1) ねらい

<学び取る力> 園児の実態や願いをもとに遊ぶことができる。

<地域を考える力> 学校や地域の特色を考えながら、遊び交流を進めることができる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1. 自分たちが考えてきた「昔遊び」の準備をする。 2. 「はじめの会」を行い、本時の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの園児を責任もって教室まで案内させる。
活動する①	3. 自分たちが作ったオリジナルの「福笑い」を行う。 4. グループごとに分かれて、「昔遊び」を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・「こま回し ・「けん玉 ・「郷土かるた」 ・「だるま落とし」 ・「あやとり」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を使ってどんな福笑いをしているのか全体で共有できるようにする。

活動する②	<p>5. 園児とともに「終わりの会」を行い、「昔遊び」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作った「福笑い」はどうだったか ・今日楽しかったこと ・うまく「昔遊び」ができるようになったか ・これからやってみいたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の前に園児と5年生のグループごとで話し合わせる。
まとめる	<p>6. 実際に園児と行った「昔遊び」についてワークシートに書く。</p> <p>7. 最後の交流までの流れを知り、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「昔遊び」のよさを園児に伝えることができたのかを中心に振り返りをさせる。



はじめの会
今日の遊びの流れの説明



見本披露
5年生から技の紹介



福笑い
園児が好きなキャラクターを使い、オリジナル福笑いを作りました。

こま回し
ひものつけ方も教えました



もともと「昔遊び」は、お正月に家族みんなで楽しむものとされていた。しかし、核家族化やゲーム機の出現などによって、あまり遊ばなくなりました。



けん玉
うまく入るコツを考えました。



あやとり
園児と5年生とが交互に行っていました。



だるま落とし

どこをどのくらいの力で打てばよいのかコツを考えました。



終わりの会

園児・5年生・教師から今日の感想を発表しました。

4. 本時を終えての5年生の感想

- ・たとえ園児がうまく技ができなくても、「おいしい!」「もう少しだね!」などと自分から明るく声をかけてあげるとがんばって挑戦するということが分かった。
- ・交流を重ねるたびに、園児の笑顔が増えてきて嬉しい。
- ・園児が楽しそうにしていると、見ている私たちも楽しい気持ちになれた。
- ・園児でもコツが分かるように、言葉づかいをやさしくしてあげた。
- ・教える時には、絵や図があったらもっと分かりやすかったのかもしれないと感じた。

5. 成果と課題

成果

- ・「園児に伝えたい日野のよさ」をテーマに話し合いを続けた結果、改めて自分たちの学校や住んでいるまちのよさを見直すことができた。
- ・自分たちの希望ではなく、園児の要望を第一に考えながら活動することができた結果、園児を満足させることができた。そして、その満足した園児の姿を見て、5年生自身も自己有用感を高めることができた。
- ・「学校公開」で実際に活動を見てもらったり、「幼稚園便り」で今回の活動を紹介してもらったりすることを通じて、たくさんの人にやさしく園児に接する様子を広めることができた。

課題

- ・なかなか地域ならではの遊びを見つけることができず、ただの遊び交流になってしまった。
 - 日野市の郷土資料館や交流館などと連携して、遊びの紹介をしてもらう。
 - 「昔遊び」では、5年生にもっと練習の時間を設け、園児に技の紹介をするべきだった。
- ・園児に「140周年の伝統」は少し難しかったのかもしれないと感じることがあった。
 - 園児にとっては、「日野市や日野一小にはこんな場所があるんだよ」「今日の給食には日野市で採れた野菜を使っているんだよ」など、身近な題材をもっと取り入れていくべきだった。

6. 学校や地域を理解するために有効なもの

※ 印写真は、「目で見える日野一小」 開校120周年記念資料 平成6年2月10日



「日野郷土かるた」

日野市立図書館昭和53・54年度の事業として作成された。



※「日野用水」
昭和30年頃

江戸時代よりも少し前に、田んぼに水を引くために造られた。



※「日野一小プール」
昭和28年
日野一小80年

日野の市内の中で一番最初に作られたプール



※「日野学校」(旧日野一小)
明治43年
日野一小37年

現在の日野児童館あたりにあった。



※「旧日野駅」
明治35年

現在の位置よりもやや豊田駅方向にあった。
立川―日野を結ぶために日野煉瓦が使われた。



「130周年記念碑」
平成15年

前面には「校歌」が、裏面には「歴代校長の名前」が書かれている。



「140周年記念樹」
平成25年

一小の校章にも使われている「桜」が植えられた。



「新校舎落成記念碑」
昭和40年
日野一小92年



「自然園」 「水車」

自然園にはザリガニなどもいる。一小の子供たちの遊び場となっている。

(馬鳥 誠)

(8) 古い道具と昔の暮らし

(第3学年 社会科)

1. 教材について

昔の暮らしについて、児童に具体的なイメージを持たせるには、衣食住に使われていた古い道具などを学習に活用するのが適しているであろう。古い道具の背景には、それらを使った人々の生活や仕事、願いがある。しかし、日野市内の場合、昭和40年以降、他の多摩地区と同じように東京のベッドタウンとして人口が急増する。それに伴って土地区画整理事業が実施され、田畑などが宅地造成されたばかりか、それまでの町並みまでも変化することがあり、古い道具などが残っていないことが多い。また、家庭では新製品に買い替えると古い道具は捨てることが多い。そこで、古い道具に関しては資料館・博物館の活用が必要になる。

本委員会では資料館・博物館との連携を進めており、古い道具に関しては体験的な活動を兼ねた展示の見学や出前授業、借用が可能である。すでに『「郷土日野」指導事例』第1集、第8集、第9集では出前授業の事例や手続きなどが報告されている。しかし、学芸員との日程が合わない場合や学級数が多く、学級ごとに時間をとってじっくり観察させたい場合は、古い道具を借用して学習を進めるとよい。ここでは古い道具を借用した場合の学習の事例を紹介したい。

なお、今まで古い道具には、漢字でかかれた専門的な説明書がつけられていた。それは、道具に関する個別の情報で、資料館としては大事なことである。しかし、小学校では、その道具がいつ頃多く使われたもので、一般的にどのような使われ方をしたのか、ある時代、ある社会を代表するモノとしても学習することになる。今回、資料館の協力によって、学習に対応して児童が読み取りのできる説明カードが作成されたので、その活用も合わせて紹介する。

2. 指導計画

社会科 第3学年 小単元名「むかしの暮らし」

(1) ねらい

- ・古くから残る暮らしにかかわる道具や、それらを使っていた頃の暮らしの様子について調べ、日野に住む人々の生活の変化や暮らしのくふうについて考えさせる。

(2) 指導計画 (12時間)

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ (○評価)
つかむ 2	<p>◆昔の暮らしの様子が描かれたイラストを見て、どのような道具をどのように使って暮らしていたのかについて関心をもち、学習問題を立てる。</p> <p>昔の暮らしに使われていた道具を調べ、地域の人々の暮らしの変化や、当時の人々の願いや工夫を調べる</p>	<ul style="list-style-type: none">・事前に、見学計画を立て、見学できない時は「出前講座」または、道具を借りる手続きをする。・昔の道具を見たり聞いたりすることで、道具や昔の生活に関心をもちようとする。 ○古い道具について、関心を示している。

調べる 8	<p>◆ 古い道具を観察しよう 郷土資料館で借用した古い道具を、観察したり使ったりして、道具の名前や使われていた時期、気づいたことや疑問などを絵カードにまとめる。</p> <p>◆ 古い道具を使ってみよう 古い道具を実際に使ってみて、気づいたことや使い方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板 ・七輪 <p>◆ 昔と今の道具のちがいを調べよう 道具の移り変わりと、くらしや社会の様子の変化を関連づけてとらえ、絵年表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古い道具の工夫はすごい。 ・今とはくらし方が違うようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い道具を知るだけでなく、今の生活との違いに気づくようにする。 ○古い道具の工夫や生活の変化に気づこうとしている。 ○古い道具について調べ、必要な情報をカードにまとめている。 ・実際に道具を使用して、道具の工夫を見つけられるようにする。 ○古い道具の使い方や当時の生活の様子を考え、道具の移り変わりに関心をもっている。 ・図書室やインターネットなどで調べたり、祖父母・両親から聞き取りをしたりしてまとめる。 ・むかしのくらしの話を聞き、さらに興味・関心を高めるよう、アドバイスする。 ○古い道具を使っていた頃のくらしの様子を理解している ○古い道具の変化から生活の変化について必要な情報を集め、読み取っている。
まとめる 2	<p>◆絵カードや年表をもとに、昔の道具について調べたことを発表し、今の生活との違いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の人は道具を工夫して使い、生活している。 ・道具が使いやすくなり、くらしも変わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の人々の願いを考えるとともに、今の生活との結びつきを考えられるようにする。 ○道具や当時のくらしの特徴を自分の言葉で表現し、発表している。 ○地域の人々の生活の変化が、人々の願いや努力によるものであることを理解している。

3. 本時

(1) 学習の展開例（本時、3・4/12）

①ねらい：古い道具を観察し、道具の名前や使われていた時期、気づいたことなどを絵カードにまとめられるようにする。

②本時の展開例

主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ（○評価）
<p>◆調べることや調べる方法を確認、観察のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ頃使われていた道具なのか ・今でいうと、どんな道具なのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市の副読本をもとに、調べる方法や観察したことを絵カードにまとめる方法がわかるようにする。 ○意欲的に古い道具を調べようとしている。

◆古い道具を観察して調べたことを絵カードにまとめる。

古い道具はいつ頃、どのように使われていたのだろう

- ・この道具は、どのように使ったのかな。
- ・炭火アイロンは、どこに炭を入れるのかな。
- ・おひつは木、それを入れる物はワラでできている。
- ・昭和の初めの頃の道具は、電気が使われていない。

- ・古い道具は家庭科室の机の上に1つずつ児童が観察しやすいように展示する。
 - ・初めに全部の道具について、説明をする。
(時間の都合がつけば、学芸員に出前授業で依頼するのが望ましい)
 - ・触ってよい道具、壊れそうで触っては、いけない道具について指示する。
 - ・道具に関する説明カードは、児童が調べやすいように各机の上に2枚置く。
 - ・各児童が調べたい道具から観察させる。
 - ・アイロンや鍋は、家庭科室にある現在の物も展示し、古い道具が今の何に当たるのか気づかせるようにする。
- 古い道具について、話を聞いたり観察したりして調べたことを絵カードにまとめている。

③留意点

- ・事前に資料館と打ち合わせをする：道具がどのように使用されたか、児童が触ることができる道具はどれか（取扱いの注意）、出前授業でのポイントなど。
- ・古い道具の働きと使い方は、児童に考えさせるように発問しながら進める。
- ・説明カードは最初から示すのではなく、道具の名称や働き、使い方など観察カードに窮する時、児童が確認しやすいように使用するなど、使用するタイミングを考えておく。

④説明カード例

ものの名前	炭火（すみび）アイロン
いつごろ	昭和（しょうわ）のはじめごろ
使い方	炭（すみ）を中に入れて使う。
くふうされているところ	炭を入れて、あたたかくなったのを利用（りよう）して、きもののシワをのばした。



ものの名前	電気アイロン
いつごろ	昭和（しょうわ）30年ごろ
使い方	電気であつくして、シャツなどのシワをのばす。
くふうされているところ	コンセントにつなぎスイッチをおせばよいので、炭を入れて使う炭火（すみび）アイロンより便利（べんり）になった。



ものの名前	ひばち
いつごろ	昭和（しょうわ）のはじめごろ
使い方	炭（すみ）や練炭（れんたん）を入れて使う。
くふうされているところ	ストーブのように、手や部屋（へや）をあたためる。また、動かすことができる。



(2) 借用した道具と借用期間

炭火アイロン、電気アイロン、洗濯板とたらい、火鉢、ランプ、おひつ、鍋：計8点。

12月4日(火)～12月7日(金) 家庭科準備室で保管

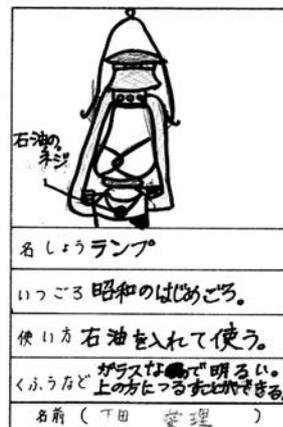
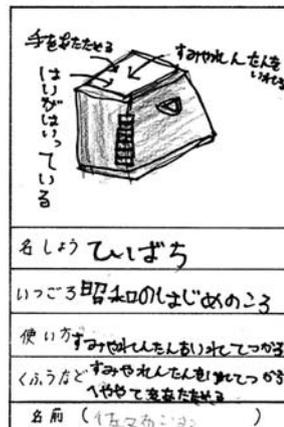
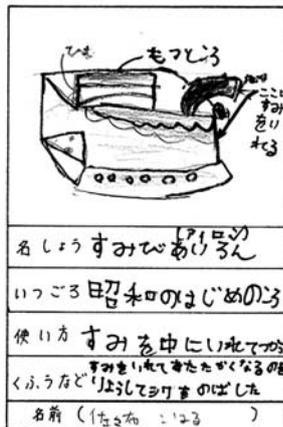
(3) 学習風景と児童の作品

① 学習風景



各学級1時間、家庭科室で自分の調べたい道具を観察した。観察する道具は1つか2つと指示したが、3～4つ観察カードに記入した児童もいた。

② 児童の作品



(4) 成果と課題

① 成果

- ・古い道具を納得がいくまで観察し、触って確かめることができるため、ふだん積極的でない児童も自分で調べ、質問する姿が見られた。
- ・説明をよく聞いていなかったり、聞き違えてしまったりした児童は、説明カードを見て名称や使い方を確認しながら観察カードに記入できた。なお、積極的な子は説明カードに限定されることなく、自分なりにまとめている。
- ・今まで出前授業の時に、学芸員から市民向けの道具の説明カードの持参があったが、児童が読めない漢字が使用され難解であった。このカードは出前授業にも有効に活用できる。

② 課題

- ・電化が始まった頃(昭和中頃)の道具を借用したいが、資料館には収集物が少ない。学習を有効に進めるために、電化が始まった頃の道具の収集をする必要がある。

(小坂 克信)

2. 新たに収集・開発した郷土資料・教材

(1) 「おどろう！いもいもおんど」

～たきび祭の学習を通して地域に愛着をもつ～

(第1学年 生活科)

1. 教材化の意図

旭が丘小学校の児童が、放課後や休日によく遊ぶ場所となっている旭が丘中央公園には、童謡「たきび」の詩碑がある。普段何気なく遊んでいる公園の一角になぜこのような詩碑があるのか…生活科「いちにいさんぽ」で旭が丘中央公園にお散歩へ行ったときに子供たちがその存在に気付いた所から、教材化をしようと考えた。

この「詩碑」は、童謡「たきび」の作詞者である「異聖歌」が、昭和23年より、亡くなる68歳まで、25年間日野市旭が丘に住んでいたことを記念し、また、いつまでも語り継いでいくために建立されたものである。

「たきび」の歌は、旭が丘の子供たちによって最寄駅である「豊田駅」の発着チャイムとなっており、馴染み深いメロディとなっている。1年生の児童も、メロディを聞いただけで、口ずさみ、「あっ！駅の音だ！」と、とてもなじみ深いものである。しかしながら、「かきね」「たきび」など、歌詞をとってみると決してなじみ深いものとは言えない。そこで、「たきび」の歌詞や当時の写真から、昔の様子を想起し、様子を思い浮かべる活動を取り入れた。その後、自分たちで「たきび」の歌に振りを付けて歌う活動を行った。

旭が丘小学校には、「いもいも音頭」という踊りがある。「いもいも音頭」は、今から約14年前に児童のアイデアによってつくられ、それ以降毎年2年生が、1年生に教える形で代々受け継がれているものである。2年生が招待してくれる「いもいもパーティ」へ向けて、今年度もペア学級の2年生が、「いもいも音頭」を教えにきてくれた。どの児童も楽しく歌と踊りを覚え積極的に活動していた。

「いもいもパーティ」では、2年生が生活科で育てたさつまいもについて、クイズやポスター、劇を通して教えてくれる。そこで、「いもいも音頭」を1・2年生で踊り、保護者の方がふかしてくれした「さつまいも」を食べる。そこで、1年生は2年生への期待で胸をふくらませていた。

毎年、旭が丘小学校の1・2年生（希望者）は、「たきび祭」に参加し「いもいも音頭」を踊っている。そこで、今年度は「たきび」の歌と「いもいも音頭」を結びつけることで、「旭が丘」という地域に愛着をもてる児童を育成したいと考えた。そして、地域の行事に目的意識をもって参加することで、地域の一員であるということを感じてほしいと考えている。

【たきび祭り】

平成18年より、詩碑がある旭が丘中央公園で12月に「たきび祭」が行われている。

2. 指導計画

第1学年 生活科「おどろう！いもいも音頭」

(1) 単元のねらい

- 秋の自然や見つけたもの、場所に親しみ、楽しく遊ぼうとする。
- 季節や地域の行事にかかわる活動を通して、四季の変化に気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
- 地域の出来事を身近な人と伝えあう活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

(2) 単元の指導計画（全13時間）

	ねらい	主な学習活動・学習内容	資料等（・）評価（○）
3	秋の公園の様子について関心をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・旭が丘中央公園へ行き、春・夏に散歩でおとずれたとき「同じところ」「ちがうところ」に気付く。 ・旭が丘中央公園で秋を感じながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然の様子に気づいている ○友達と楽しく遊んでいる
2	「異聖歌」について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・旭が丘中央公園には「異聖歌」の「たきび詩碑」があることに気付く。 ・「異聖歌」について知る。 	（他教科との関連） 音楽「たきび」 歌詞から、歌の様子を思い浮かべる。 <ul style="list-style-type: none"> ・豊田駅のチャイム ・昔の旭が丘の写真
2	「たきび」の歌を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・「たきび」の歌に振りをつけておどってみよう 	（他教科との関連） 音楽「たきび」 歌詞を見て、思い浮かべた様子から振りをつけて身体表現をする。
6	いもいもパーティーをしよう	いもいも音頭を覚えていもいもパーティーと「たきび祭」に参加しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・いもいも音頭を2年生から教えてもらおう ・いもいも音頭の練習をしよう ・いもいもパーティーを開こう ・2年生にお礼のはがきを書き、たきび音頭を披露しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生と進んで楽しく交流している （他教科との関連） 国語「はがきを書こう」
1	いもいも音頭を通して地域に親しもう	「たきび祭り」に参加し、「いもいも音頭」を踊って地域に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事に参加し、進んで交流している。

3. 活動の様子

いちにいさんぽ（旭が丘中央公園）



落ち葉のふわふわを味わいながら「落ち葉のベッドだね」と次々に遊びを見つけ、自然の変化の様子に気付きながら、遊びを楽しむ児童の様子が見られた。

「たきび」の歌を楽しもう



歌詞から様子を思い浮かべ、班で振りを付け発表会を行った。赤白帽子をたき火に見立て、手を当てたり、風が強くふく様子を身体を使って表現したりしていた。

二年生との交流



「いもいもパーティー」の招待状をもらい、期待をふくらませていた。

一年間を通しペアを組む2年生から「いもいも音頭」を教えてもらい早く覚えようと意欲的に練習をしていた。



「いもいもパーティー」本番。
2年生から「さつまいも」についてクイズや劇を通して教えてもらいました。



練習して上手に踊ることができるようになった「いもいも音頭」を元気に踊りました。



みんなで「さつまいも」を食べました。「一年生から好きなの選んでいいよ」「ありがとう」優しい声がたくさん聞こえてきました。「私たちも、優しい2年生になれるかな」「なりたいな」来年は2年生になるという期待感をもって過ごした一日になりました。

たきび祭に参加しよう



1・2年生（希望者）で大きな輪を作り、「いもいも音頭」を披露しました。
「とても楽しかったよ～」「やきいもおいしかったよ～」地域のお祭りに地域の一員として参加しました。

4. 資料

いもいも音頭 歌詞

ちょちょんがちょん ちょちょんがちょん
旭小に秋が来た みんなでたのしくおいもほり
かたちはごつごつ 赤いふく
ひげはいっぱいぴっぴっぴ
土の中からこんにちは
いもいもいもいも おいもほり
あっぱれいもいもいもおんど

ちょちょんがちょん ちょちょんがちょん
今日は楽しい いもパーティー
みんなで 楽しくたべましょう
うまくできたら ほっぺがおちそう
わらいがとまらん わっはっは
力がもりもり ゆうきが出るぞ
いもいもいもいも いもパーティー あっぱれいもいもいもおんど



「異聖歌」について



異聖歌 童謡「たきび」詩碑 (旭が丘中央公園)

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・教師も児童も単元を通して「目的」をしっかりともち、活動することができた。
- ・秋を探す公園での自由な活動（遊び）の中からたくさんの気づきを見出すことができた。

(2) 課題

- ・地域行事への参加から生まれた「地域への愛着」を継続させていくための手立てを考えていく必要がある。

(岩井 美保)

(2) 玉南鉄道と七生村

1. 教材化の意図

明治40年（1907）、現在の京王電鉄の前身である京王電気軌道会社が新宿―八王子間の鉄道敷設の免許を取得しました。笹塚―調布間、新宿―笹塚間、調布―府中間と徐々に開業していきながら、大正5年（1916）新宿―府中間が開通しました。さらに、府中―八王子までを繋ぐには多摩川鉄橋を建設するという大がかりの工事を行わなければならない、府中以西の工事については着工しないうちに敷設免許が取り消されてしまいました。

大正14年の府中―八王子間開通に至るまでには、交通の不便を感じていた沿線住民の強い要望がありました。政府補助金を受けて工事を始めるには、「地方鉄道法」に則り別会社をつくって、線路の軌間1067mmを採用することでした。別会社、これが玉南電気鉄道株式会社です。

（※京王電気軌道の線路軌間は1372mmです）

玉南電気鉄道会社は、資本金の4割を京王電気軌道が、残りを沿線有志が引き受け、大正11年に設立されました。工事は順調に進み、七生村からは駅の用地等の寄付もあり、大正14年府中―東八王子間が開通しました。玉南線の開通です。開通当初の駅は百草、高幡、平山の3駅、翌年には南平駅が開設されました。

浅川に沿って敷設された玉南線の府中から東八王子間の所要時間は32分。二つの線の府中駅間は徒歩約4～5分、乗り換えは利用者にとっては不便に感じられました。ところで、結果的には政府補助金はおらず、玉南鉄道は開通してわずか1年間の後には京王電気軌道に吸収合併、線路軌間は京王線の線路軌間に統一されました。玉南線はわずか1年間という短い期間ではありましたが、高幡不動尊境内には「玉南電気鉄道記念之碑」が建立されています。



この碑文には、大正11年7月の発起人ならびに沿道住民の協力による玉南電気鉄道会社の成立から工事の経緯、多摩川をわたす至難な橋梁工事、3年後の大正14年3月には全線開通（府中―東八王寺間）を祝う開通式、翌年の昭和元年の12月には京王電気軌道会社と吸収合併に至る経緯が刻まれています。そして、碑文の最後に「沿道及び関係者の知悉（ちしつ）に便す（役立たせたい）」昭和二年十月 元玉南鉄道株式会社社長勲四等 井上篤太郎 撰 と、玉南鉄道株式会社の社長井上篤太郎氏によって作られた文章です。

碑文から、玉南線が、その後の七生村の歩む大きな原動力となっていたことがわかります。

七生村は昭和33年に日野町と合併し新日野町となり、現在、七生という村名は、校名（七生中学校、七生緑小学校）や、丘陵（七生丘陵）等の呼び名として残されています。現在にいたる七生地域の生活、文化の発展は、こうした七生村の人々の玉南鉄道・玉南線開通への大きな願いがあり、資金の調達のために人々の協力、支援があったことや、百草駅、高幡駅、南平駅、平山駅の四つの駅が順次開業していった歩みを、子どもたちに伝えていきたいです。そして、私たちが暮らす地域の変遷は、当時の人々が村発展のためを考え、力を尽くしてきたことを理解させ、感謝と郷土への関心を高めたいものと考えます。

※ 写真 広報ひの 平成11年4月15日号 日野の歴史と民族<日野の石碑を訪ねて>より転載

2. 玉南鉄道開通後の七生地域の変遷

明治22年に誕生した七生村は、昭和33年に日野町と合併し、新たに“日野町”となりました。その間の七生村、七生地域の変遷をたどってみますと、玉南鉄道の開通後は●で記しているように、丘陵の緑、豊富な湧水といった豊かな自然と広い土地を生かし、たくさんの人々が集う行楽地や、レクリエーションの場が開発され、“観光の七生”“として発展してきたことがわかります。

●七生村は、明治22年の「市制及び町村制」施行にともない、これまであった七つの村（落川、百草、三沢、程久保、高幡、南平、平山）が合併してできた村です。

浅川に沿って南側一帯の低地から七生丘陵に至る東から西に広がる地形で、養蚕、水田、畑作の行われる農村地帯でした。

●大正14年、七生村に玉南鉄道が開通し、百草・高幡・南平（大正15年合併後）・平山駅の四つの駅が開業しますと、その沿線では村の景観がこれまでと大きく変わり始めました。

●同年の大正14年、平山村の杉山又吉氏が中心となって各地主と相談して造り上げた平山ゴルフ場（現在平山城址公園）にはゴルファーの多くが京王線を利用してやってきました。財閥の三井・三菱の重役、有名なゴルファーも使用したそうです。（昭和13年閉鎖）

●大正15年には高幡－立川間で初めてのバス路線が開通しました。

高幡不動尊の参道は参拝客で賑わうようになり、付近には旅館、割烹料理店、みやげ物店、カフェー等が立ち並び、娯楽施設や動物園もできました。また、高幡不動尊の境内には演芸場ができ、芸人も招かれました。

●昭和11年には、鮫島亀之助氏によって平山に鮫陵源が開園しました。大きな養魚場、料亭と宿泊施設、洋風遊園地が組み合わさったレジャー施設は子ども連れで賑わい、当時としては画期的な施設でした。正門の三角屋根のモダンな建物はシンボルとして珍しがられました。京王線では入園料つき切符を販売しました。

入園料大人20銭、子ども10銭。（昭和18年に閉園）

●昭和12年には京王線では観光名所を駅名にし、百草が百草園駅、高幡が高幡不動駅、平山が平山城址公園駅に変わりました。

●昭和29年になると平山ゴルフ場の跡地に平山城址公園が開園、野猿峠ハイキングコースもつくられました。

●昭和33年には京王電鉄、七生村の協力によって七生の自然・地形を生かし、無柵放養式の多摩動物公園が開園。開園当日は25万人もの人出で賑わいました。生息地域ごとに分けた飼育展示は現在に至るまで飼育関係者の様々な努力・工夫によって改良が行われ続けています。

●昭和36年にモータースポーツをテーマに、多摩テックが開園しました。（平成21年に閉園）

●昭和39年に京王多摩動物公園線が開通しました。

昭和30年代は日本が高度経済成長へ、昭和39年には東京オリンピック。住宅の供給は都心から離れた周辺地域にも広がり、日野にも宅地開発の波は押し寄せてきました。七生丘陵の宅地造成は進み、武蔵台・南平台・京王平山等の住宅団地、百草台や高幡台の団地が次々に誕生したのです。

参考文献 日野市ふるさと博物館企画展「まちに電車がやってきた ―京王線と日野市の軌跡―」
平成12年7月20日 日野市ふるさと博物館発行

（吉野 美智子）

3. 関係機関との連携・協力の広がり・深まり

夏休み小中学生向け企画展

(1) 新選組ってなんだろう ～親子で学ぼう幕末日本～ について

1. 新選組のふるさと歴史館について



日野は新選組副長土方歳三、六番隊組長井上源三郎の出身地であり、土方や井上と新選組局長近藤勇や一番隊組長沖田総司が出会うきっかけを作り、新選組の有力な支援者であった佐藤彦五郎が名主をつとめた地でもあり、「新選組のふるさと」というにふさわしい土地であり、新選組や関連諸資料を収集・展示する自治体として最も適したところである。

日野と多摩地域の歴史と文化を学術的に明らかにしながら新選組を総体として位置づけ、近世後期から近代初頭の自由民権運動期までを見通した新しい地域史の試みとして、新選組のふるさと歴史館は調査・研究、展示活動を行うために平成17年度に開館した、地域を知り、郷土に愛着を持つきっかけとしての活用も期待される施設である。

新選組のふるさと歴史館は「新選組のふるさとひの」をPRする観光施設としての側面もあり、実際に市外から訪れる来館者が多い。一方で、多摩地域や埼玉県、千葉県などいわゆる「ドーナツ」のベッドタウンエリア共通の悩みと思われるが、住民の地域に対する興味・愛着があまり高くなく、歴史館の来館者のうち、市民は5%前後に留まるという調査結果も出ている。また、市の広報による発信にも限界があり、新選組のふるさと歴史館の存在自体を知らない市民もかなりの割合で存在し、平成27年で17回を数える「ひの新選組まつり」の知名度も市内においてはまだ高いとは言えない。

学校教育の場などでも、一部の学校の一部のクラス、個人的に幕末に興味をお持ちの先生が自クラスを率いていらっしゃる場合があるものの、あまり活用されておらず、市内各学校の先生方も、歴史館を訪れたことのある方は少ないようである。

市内小中学生がクラス単位で歴史館を訪れるのは、当館で開催する日野市郷土資料館特別展の観覧目的を除くと、かなり少ないのが現状である。

そこで、市内小中学生が自由研究などのために「調べる題材」を探している「夏休み」に合わせ、自由研究にも利用できる展示とすることで、まずは子供たちに地域の歴史に興味を持ってもらうべく、今回の展示を実施した。

2. 展示概要

(1) 展示について

- ・タイトル：新選組ってなんだろう～親子で学ぼう幕末日本～
- ・期 間：平成26年7月26日（土）～平成26年9月15日（祝）
- ・場 所：日野市立新選組のふるさと歴史館第二展示室

(2) 目的

日野市はまちづくりのテーマの一つに「新選組のふるさと」を謳っている。

市内の子どもたちが新選組に触れる機会を設け、子どもたちの新選組への理解を促し、郷土への関心・愛着を深める。夏休み期間に訪れる幅広い層の来館者に対し、新選組・日野市への理解を促す働きかけを行う。

難しいと言われがちな「幕末」という時代をなるべく分かりやすく、幅広い年代に興味をもってもらえるような展示を目指した。

3. 章立てと展示内容

(1) 江戸時代の社会と日野

新選組の前史。甲州道中日野宿の繁栄から、日野の人々と天然理心流との結びつきについての展示をすることで、この「流れ」と「繋がり」が新選組に連なることを示す。

(2) 開国と攘夷

江戸後期～幕末期の激動の歴史と、日野について。江戸時代後期～末期に起った歴史的イベントなどを時系列を追って説明し、因果関係をできるだけわかりやすく解説するとともに、身近な日野の歴史をリンクさせることで、日本の歴史と日野の歴史が密接にかかわっていて決して遠い世界の自分達の住むところとは無縁の出来事ではないことを理解させる。

江戸後期～幕末期の社会の変化や様々な事情から日野で剣術を学ぶことが流行し、やがてそうした日野宿で剣術を学んでいた人々が歴史の表舞台に出ていくことを示して、次章でいよいよ登場してくる新選組の存在を匂わせて繋げる。



(3) 新選組の誕生と京都での活躍

いよいよ日野の人達が京都で活躍を始める。昨今は新選組や幕末がTVや漫画などで取り上げられることも多く、そうしたところに登場する人物や出来事を多数登場させることで、興味を惹くことを狙った。特に、浪士組・新選組の重要人物である清河八郎や近藤勇、日野出身の土

方歳三や井上源三郎については専用の人物紹介のコーナーを設けた。

新選組の誕生やその後の活躍については、そもそも日野の人達が、何故京都に行くことになったのか。そして京都で誰のために何をしていたのかを、できる限り噛み砕いた表現で解説した。

(4) 戊辰戦争

「戊辰戦争」という社会科の授業で聞いたことがある単語を出し、広く歴史の流れを説明するとともに、日野との関わりを示した。

江戸幕府と新選組が戊辰戦争の中で敗れていく様子、その中で、日野の人達が新選組を支援し、共に戦ったこともあるということを示し、教科書の中に出てくる遠い世界のような歴史が、自分達の地元と実は密接に関係があるということを示して、「地元」と「歴史」を身近に感じてもらおう。

(5) 新しい時代～明治以降の日本と日野～

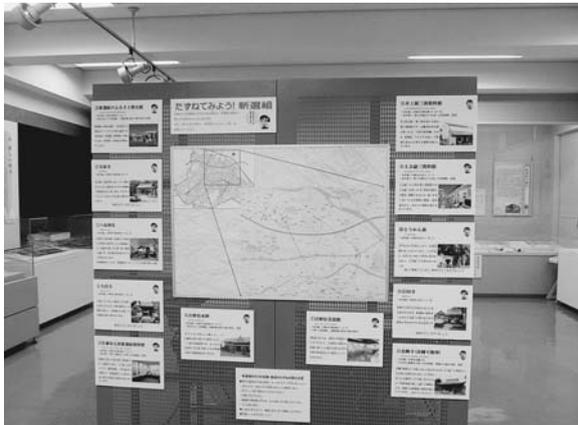
明治以降の日野のことについて展示した。

江戸時代が終わり、新選組に関わったり新選組を応援したりしていた人達がどうなっていったのか。ある者は自由民権運動に身を投じ、ある者は近代的な事業を起こしたりした。

その中には、現在でも中央線の鉄橋などで使われている「日野煉瓦」など現在に繋がっているものもあり、現物と現状の写真を並べて示すなどで身近な出来事として感じてもらえる展示を目指した。

さらにその後の歴史も概観し、現在の自分達に繋がっていることを体感してもらうことを目指した。

4. 体感展示と新たな試み



展示の最後に日野市の大きな地図を掲げ、小中学生が実際に歩いて史跡巡りをする際の参考になるようにした。幕末・新選組関連史跡・施設の場所を示しつつ、所々空欄を設けており、自分で調べられるようにした。

また、小中学生の興味を惹きやすいクイズ（全問正解者には抽選で新選組グッズが当たる）を実施した。基本的に問題の答えは展示のどこかに書いてあるため、問題に挑戦した人は必然的に、「解説文をよく読む」という効果が得られた。

なお、副次的な効果として、来館した小中学生のほぼ全員がクイズに応募したため、来館者

に占める小中学生、特に市内小中学生の数と割合を知ることができた。

この他、少しでも郷土に対する興味を持ってもらえれば、と、新たな試みとして関連行事を実施した。

(1) 学芸員による展示解説

少しずつ曜日をずらしながら、基本的に毎週実施した。展示内容をわかりやすく説明した。

(2) 剣術体験

天然理心流九代目、宮川清蔵氏（近藤勇の兄、宮川音五郎の子孫）と井上源三郎資料館館長の井上雅雄氏に協力をいただき、近藤勇や土方歳三、沖田総司らが修めた剣術である天然理心流の体験講座を実施した。

いつの時代にもチャンバラが好きな子供はいるもので、木刀を使って先生方から直接指導を受け、最後には「仮切紙」（「切紙」とは天然理心流の「初級免許」のこと）が手渡され、指導を受けた子供は勿論、保護者の方々にも好評を得ることができた。これら新しい試みは、今後の企画展の際も発展的に続けていきたい。

5. 課題と目標

今回の展示期間中の入館者数は2,972人（うち小中学生455人）、前年同時期比+20%で、7、8、9月の月ごとの入館者数は過去最高を記録した。

一方、市内の小中学生は約70人、率にして15%程度、各校あたりで平均すると2名強に留まり、広報やインターネットによるもののほか、展示直前に市内小中学校長を招いて学芸員による展示解説会を行って児童生徒への周知を依頼したが、あまり効果は感じられなかった。

市民の「地域の歴史」に対する興味は十分とは言えない。

むしろ市外の大人の「新選組に興味があるけどよく分かってなかった」層からは大変好評で、大人の方々から「常設でやってほしい」という声を相当数いただいた。

一方で、本来のターゲット獲得に結び付かなかったのはやはり課題である。

時期的に自由研究に的を絞った分、逆に校外学習には使いにくい期間設定となってしまった。

ただし、期間終了後の10月3日に、幕末ファンの先生が自クラスを含む学年を引率して展示を見学することになり、第二展示室の撤収を遅らせることで、その後の展示準備スケジュールがタイトなものになったが、子供たちに今回の展示を見てもらうことができた。

「新選組のふるさとひの」を市民にも知ってもらうためにも、学校との連携を進めることが必要であり、校外学習で活用してもらうためにも、このような展示を開催する際には期間の再検討が必要になるだろう。

日野の歴史を見せながら、現在の日野と過去の日野は歴史として繋がっていることを体感させることで、郷土に対する愛着を高めたいと考えている。

残念ながら、今回の企画展を市内小中学生の間で興味を惹くことができなかつたので、まずは市内小中学生に「新選組のふるさと歴史館」の存在を認識してもらうところから始めたい。

（松下 尚）

(2) 地域を見る目～地域資料が語りかけてくれること～

日野市教育委員会：生涯学習課学芸員 大石絵理子
日野市教育委員会：日野市郷土資料館学芸員 秦 哲子

はじめに

今、日野市の埋蔵文化財発掘調査が熱い。これまで殆ど調査が行われていなかった川辺堀之内地区では、川辺堀之内の原型と考えられる集落跡や古墳群が発見され、その豊かな遺構と遺物から、今後の解明が大きく期待される遺跡です。また西平山地区でも官衙的性格の強い遺跡が発見され、平安時代の区画溝や大型掘立柱建物跡、格式の高い四面庇建物跡が検出されました。

このように近年の埋蔵文化財発掘調査の成果には目を見張るものがあります。考古学という手法によって、地面の中から解き明かされる日野市域の歴史とその広がり、そのダイナミックさと共に学芸員の手を経て資料化され、現地説明会や「広報ひの」「ひのっ子きょういく」、展示、発掘調査概報や報告書などを通して周知されます。

本稿では、最初に、土地区画整理が進められ目まぐるしく変化しつつある「川辺堀之内地区」において発見された遺構や遺物を紹介し、次に日野市域を通過していたと考えられる「日野大道」について紹介することで、地域の歴史を見ていく素材と視点の提供を行っていくものです。

(文責：秦 哲子)

1. 吹上遺跡—川辺堀之内土地区画整理地内における埋蔵文化財発掘調査—

(1) 遺跡の立地

吹上遺跡は、現在の豊田駅周辺から川辺堀之内地区にかけての広大な範囲に所在しています。遺跡の立地は、浅川の左岸、日野台地と浅川の沖積低地の間にある中位の河岸段丘上（立川面相当）に位置します。

調査が行なわれた川辺堀之内地区は、丁度、吹上遺跡の東端部に位置し、長年豊かな田園風景が広がっていたこともあり、これまで殆ど調査が行なわれることはありませんでした。



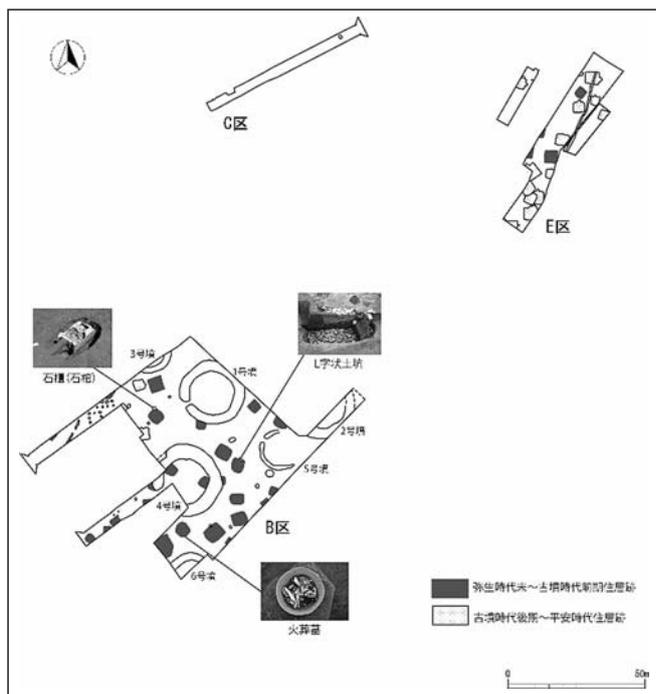
図版1 川辺堀之内地区空撮写真（浅川側より）

(2) 発見された遺構

調査では、弥生時代末から古墳時代前期にかけてと、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴住居跡が計53軒、墓の可能性のあるものも含めた土坑26基、円墳とよばれる古墳6基、掘立柱建物跡3棟などが確認されています。この他にも縄文時代の集石や土坑、また、中世期のものと思われる竪穴状遺構1軒なども確認されました。



図版2 調査区（B区）空撮写真（上が南）



図版3 調査区配置図及び遺構分布図

(3) 住居跡

住居跡は、弥生時代末から古墳時代前期と古墳時代後期から平安時代にかけての二時期のものが発見されました。

前者は、主にB区で多数発見されています。住居の平面形は、楕円形もしくは隅丸方形のものが主体を占め、中には焼失住居も数軒確認されました。これらの焼失住居は、出土する遺物が少なく、また小破片が多い傾向にあることから、おそらくは家財道具を持ち出した後で人為的に火がつけられた可能性が考えられます。更には、火を受けたことで炭化した柱や梁、出入り口に伴う梯子の一部が遺存しており、当時の住居構造を考える上で非常に貴重な発見がありました。また、古墳時代前期の住居跡の貯蔵穴からは、

ほぼ完形の土器が複数個体出土しています。

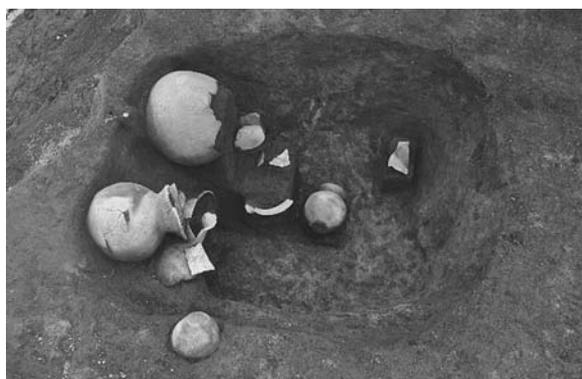
後者は、主にE区で発見されました。カマドの造り替えがみられる住居跡や^{ふいご} 轆^{はぐち}の羽口、鉄滓^{てっさい}等が出土しており、通常の集落とは異なる工房関連の施設の可能性があります。また、それらの住居跡からは灯明皿や墨書土器、鉄製の紡錘車などの遺物も出土しています。



図版4 焼失住居（弥生時代末・楕円形）



図版5 焼失住居（古墳時代前期・隅丸方形）



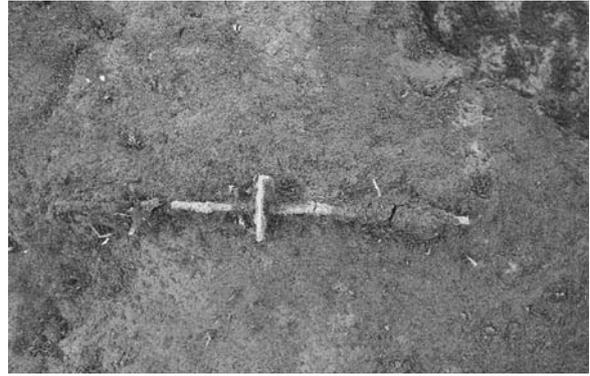
図版6 貯蔵穴出土土器（古墳時代前期）



図版7 墨書土器（平安時代）



図版8 轆の羽口



図版9 鉄製紡錘車

(4) 古墳

B区において6基の古墳が発見されました。これらの古墳の存在は、絵図や伝承などにも残されてはならず、これまでまったくといってよいほど知られていませんでした。残念ながら墳丘部分は既に削平され、周溝のみの検出となりましたが、墳形は全て円墳と考えられます。内3基には、周溝の途中に地山を掘り残した陸橋が設けられているのが確認されました。また、陸橋脇からは、ほぼ完形の土師器杯や須恵器甕・ハソウ等が出土しています。

墳丘の規模は、直径約26mの4号墳を最大として、1・2号墳が約24m、次いで6号墳が約14mを測ります。出土した遺物から、これらの古墳の築造年代は古墳時代中期から後期初頭にかけてと考えられます。また、それらの年代観と主体部付近から石材等が出土していないことも合わせ、埋葬施設は石室を持たない木棺直葬等の竪穴式のものであったと思われる。



図版10 4号墳周溝内出土土器



図版11 2号墳周溝内出土土器



図版12 L字状土坑

この他、古墳の周囲からは断面がL字形を呈するL字状土坑(墓?)が複数確認され、中には横穴部の底面に川原石を敷き詰め、横穴部と竪坑部の境に閉塞石を伴うものも発見されています。この形態は、B区北側約200mに位置する日野台地の崖線(神明上遺跡)で発見された古墳時代末から古代にかけての横穴墓と非常によく似ており、築造年代やその母体となる集団等、何らかの関連性がある可能性も考えられます。

また、同じく古墳の周辺から切石砂岩を使用した石櫃^{いしびつ}（石棺）や土師器の甕を転用した火葬墓なども発見されています。この石櫃（石棺）もまた、B区北西約500mの日野台地上（神明上遺跡）で同様のものが発見されており、地域的な関連性が示唆されています。



図版13 石櫃（石棺）



図版14 火葬墓

成果と課題

今回の調査から、古墳の築造の前と後で、それまで集落域が広がっていたB区地点が墓域へと転じ、E区地点に集落域が移動している状況が明らかになりました。弥生時代末から古墳時代前期までB区地点にいた人々が、その後、古墳時代中期の段階で実際にどこに移っていったのかは未だ分かってはいませんが、過去の調査によりB区より西に約1kmの地点に中期の集落が存在することが分かっており、何らかの関係性があるものと考えられます。

また、発見された古墳がいつ頃まで川辺堀之内の風景の中に存在していたのかについては、今回の調査で明らかにされたように、古墳時代後期から平安時代の集落がE区に展開していることから考えて、少なくとも古代の段階までは墳丘がそのまま残されていたであろうことが窺えます。更には、明治時代の絵図に墳丘が記されていないこと、そしてその絵図が江戸時代の絵図を描き写したものであろうことを考えると、江戸時代には既に墳丘は失われ、調査前と同様に一帯は畑として利用されていた可能性が高いものと思われれます。よって、墳丘が削平されたのはそれより以前、中世の段階であったと推測されます。また、もう少しだけ踏み込んだ考察を試みるならば、B区の西隣、小さな谷を挟んだ対岸の崖線、舌状に少し迫り出した場所に中世の川辺堀之内城が存在し、そこからB区南側の崖線に沿うように薬研彫りと呼ばれる堀がめぐらされていることが調査等により分かっています。そこから推測するに、これら一連の中世期の流れの中で、古くから存在していた墳丘が都合により削平されてしまった可能性は十分考えられるところです。

今後の課題としては、古墳時代前期までB区の住居跡に住んでいた集団が中期の段階でどこへ移ったのかについて、周辺で発見されている中期集落との検討が必要となります。また、古墳群を築造した集団の集落はどこに存在するのか、E区検出の工房施設は何に関連するものなのか等、周辺の調査事例も含めて川辺堀之内の歴史を総合的に考えていけたらと思います。

（文責：大石絵里子）

2. 「日野大道」について

(1) 中世立川文書に見られる「日野大道」

立川氏は、多摩川中流域を中心に展開した武蔵七党西党日奉氏の一族で、その立川氏にかかわる資料集が平成22年に立川市教育委員会から刊行されました（註1）。その中の貞応2年（1221）12月9日「土淵時安譲状」に出てくる以下の文言「西郡内」「大道」「北多波河」という記述に注目したいと思います。

土淵時安は、日奉氏一族の由井氏から土淵知家の養子となった人物です。小川系図（塩田行之氏旧蔵）によれば、日奉氏は撰関家との関わりを持っていましたが、宗頼が武蔵国に流され（西党のはじまり）、その後、宗忠と宗弘の二系統に分かれました。宗弘は、武蔵国衛の在庁官人「二庁官」であり、「由井日判官」（小川系図）、その他の系図には「由井日別当」とあることから（日は日奉氏のこと）、由井牧の管理者（別当）を務め、源頼義に従って前九年の役に従軍した人物であると考えられます。子孫は国衛の馬を使役する役所である「駄所」を司りました。それが田村氏と土淵氏に分かれましたが、土淵時安は由井氏から土淵知家へ養子に入り、同じく田村弘持も由井氏から田村知弘の養子となっていることから、田村・土淵共に、宗弘系統は由井牧の運営に深く関わり、武蔵国衛の運輸・交通関係を担った一族であることが系図から読み取れます。

ここで文書の記述に戻ると、「西郡」は多摩川右岸であることを示し、北は多摩川とあることから、日野市域に「大道」と呼ばれる道が通過していたことが判明します。

次に元徳二年（1330）「周防守貞世相博状写」を見てみましょう。これは周防守貞世が立川重清妻と立川郷内知行分を交換（相博）するという内容の文書ですが、その中の二平三入道作高田五段大分として「東を限る 道／南を限る 高まをのぼりに大道切付／西を限る 馬下房大道／北を限る 先に相博す二平三入道作の二段を堺て、高まへ切付」の記述があります。また同じく次郎太郎入道作五段半・二平三作新田小分として「東を限る 彦太郎分を溝へ切付／南を限る 溝をのぼりに日野大道へ切付／西を限る 日野大道を北へ、先に相博す二平三入道作田、高まへ切付／北を限る 高まを下に、鯉治（沼）道へ切付、鯉治（沼）道より北へ彦太郎分へ切付」と記されています。

ここで注目したいのは、「日野大道」と呼ばれる大道の存在です。文書に見られる「高ま」の「ま」は崖のことであり、立川市側多摩川付近の低地から北の普濟寺側を眺めれば、比高差10m前後の連続した段丘崖が連なっていて、まさに「高ま」といえます。「鯉沼」（恋沼）は、普濟寺西南の崖下あたりにあった沼だそうです（現立川市富士見町7丁目付近）。南限にも西限にも日野大道が出てくることから、この場所では、日野大道が南北方向に走っていたと考えられています（以上、「中世武士立川氏関係史料集 立川文書」より）。

(2) 「日野大道」について

「大道」といえば、官道か、もしくはそれに準ずる大きな道をさします。古代の道路には、拠点である国府間を最短かつ直線的に結ぶ「駅路」と地域拠点である郡家どうしを結ぶ「伝路」がありました。日野市域での大きな道といえば、まず甲州街道が想起されます。江戸時代の甲州道中といえば、江戸日本橋から甲府を経て下諏訪で中山道に接続しますが、それを日奉氏一族が活躍した時代に当てはめてみると、武蔵国衛と甲斐国衛を結び京都へと通じる東西方向の主要幹線道路が浮かびあがってきます。平川南氏は、古代甲斐国が官道である東海道と東山道の行政・交通上の連結部「交^かい」に当たることから、それが甲斐国の国名の由来になったのではないかという説を唱えています（註2）。

すなわち「日野大道」は、武蔵国衙から甲斐国衙を経て、東海道または東山道経由で京都へと通じる主要幹線道路でした。また江戸時代の日野の渡しのように、市域付近に日野大道上の多摩川・浅川の渡河点があったと考えられ、かつ多摩川や浅川で運ばれた物資の運輸拠点にもなり得たと考えられます。だからこそ日奉宗弘は、武蔵国衙の在庁官人として国衙の馬を使役する駄所に勤仕し、由井牧の別当を務め、その馬を都に貢納するのに日野大道を使ったことでしょう。平山季重も、京都にある院の武者所に出仕するために、この日野大道を使ったはずです。

（3）市域にみられる「日野大道」の名残

それでは「日野大道」は市域のどこを通過していたのでしょうか。ここで注目したいのが「東光寺」「大坂」という呼称です。藤原良章氏によれば、「東光寺」は中世まで遡る道のメルクマールとなる名称であるといえます（註3）。市内東光寺にある東光寺薬師堂旧地は、日野宿方面から西に向かう東光寺道が直角に折れる地点に位置し、そこから東光寺大橋を渡って東光寺大坂を上り、日野台地へと上がっていく道筋にあります。東光寺大橋・東光寺大坂のように橋や坂に「大」がつくのは、それが幹線道路をあらわすからでしょう。また東光寺大坂をのぼって金刀比羅社の角には、時代は下りますが「右 たきやま道 左 はちおうじ道」の自然石の道標がありました。

旧甲州道中の西の地蔵から日野っ原に至る坂を「日野坂」といい、「大坂上」「大坂西」の小字が残っています。これも幹線道路につく「大」であり、日野台地には中世の「上人塚」「富士塚」もあることから、これらと合わせて考えると、ここにも日野大道が通っていた可能性があります。

また小野路（現北野街道及び川崎街道）沿いで寿徳寺下から高幡山金剛寺方面へ上る坂も「大坂」と呼ばれていたそうです。市域に残されたこれらの呼称は、「日野大道」を復原していく上での重要な手がかりとなりえるのです。

おわりに～それでも道は続く～道を行き交うヒト・モノ・文化

平安時代後期には笛吹市春日居町桑戸で端正な造形の木造五大明王像（県指定文化財）が、同熊野堂でも、造形は異なりますが、高幡山金剛寺の木造不動明王像（平安時代末期の製作、像高282.5cm）と比肩される大きさの木造不動明王坐像（県指定文化財。像高約255cm）が造られました。この巨大な丈六の不動明王坐像は立川不動尊と呼ばれ、平安時代後期以降、武蔵国衙と甲斐国衙、京都を結ぶ道筋で、不動明王信仰が人々の間に広まっていたことがうかがえます（註4）。

道を行き交うヒト・モノ・文化。そのざわめきが聞こえてくるようです。道はどこかとどこかを結ぶもの。ヒトや物資の流れがあるところに道ができ、そこには文化も行き交います。地域資料を地域の中だけで捉えるのではなく、どこまで広げていけるのか。日野の豊かな歴史や文化を物語る素材を発見し、これからも提供していきたいと思っています。（文責：秦哲子）

註1：『中世武士立川氏関係史料集 立川文書』立川市教育委員会 平成22年

註2：平川南「古代日本における交通と甲斐国」『古代の交易と道 山梨県立博物館調査・研究報告2』山梨県立博物館 平成20年

註3：藤原良章『中世のみちと都市』山川出版社 平成17年

註4：岩佐光晴氏の高幡山金剛寺木造不動明王及び二童子像に関する講演 日野市ふるさと博物館 平成14年

(3) 調べ学習での図書館の利用の仕方 郷土教育への市政図書室の活用

郷土教育の授業を行う際に資料での研究は欠かせないことですが、郷土に関する資料を集めることは容易ではありません。一般の書店などで流通していないものが多い上に、現在では手に入らないものがほとんどです。

学校の図書室にあるものだけでは足りない場合にはぜひ市立図書館をご利用ください。本稿では、普段なじみの薄い市政図書室のご紹介をします。

1. 概要

市政図書室は、日野市庁舎の新築移転に伴い、1977（昭和52）年庁舎1階に開館しました。日野市立図書館の分館の一つで、行政資料および地域資料を中心とする図書館です。蔵書数は約4万冊です。

市政図書室の開館に先駆け、日野市立図書館では1973（昭和48）年の中央図書館開館時より市民資料室を設置し、地域資料の収集・提供に努めてきました。

ここでいう地域資料というのは、①行政・民間を問わず日野市内で発行された資料、②日野市の在住・在勤者および出身者が作成した資料、③日野市に関する記述のある資料、④日野市に関連のある（影響を与えうる）資料です。市民の著作、市民団体・サークル活動の会報類、市内企業の社史や会社案内、商品パンフレットなども収集しています。

また日野市に限らず、郷土史研究に関わりの深い東京都や旧武蔵国の資料も収集しています。

2. 郷土研究に役立つ蔵書

市政図書室の蔵書で、郷土研究に有用な資料をご紹介します。

(1) 日野市史・市史資料集

日野市の歴史について網羅していますので、何をおいても最初にあたる資料といえます。さらにこれを補う資料として、郷土資料館やふるさと歴史館などで発行された刊行物やリーフレットがあります。

(2) 郷土史研究の雑誌

代表的なものとして、「日野の歴史と文化」と「多摩のあゆみ」があります。

「日野の歴史と文化」は日野史談会発行で、1968（昭和43）年に創刊、2000（平成12）年の50号で終刊となりました。日野の歴史について郷土史研究家の方々が多くの研究や論文を寄せています。

「多摩のあゆみ」はたましん地域文化財団発行で、1975（昭和50）年創刊～現在も季刊で発行されています。こちらは日野の歴史に限らず、多摩地域の歴史、文化財、自然などの記事が掲載されています。

(3) 広報ひの

昭和27年の日野町広報から所蔵しています（一部、欠けているところもあります。また、古いものは複写資料です）。わかりやすい文章で書かれ、写真や図版が多く、当時の生活が良くわかるという点で優れた資料です。

(4) 住宅地図

1962(昭和37)年が最も古く、昭和40年代以降はほぼ毎年所蔵しています。ピンポイントでそこに何が建っていたのかを調べることができます。また、古い住宅地図には区画整理前の字名の記載がありますので、地名の変遷もよくわかります。

(5) 各学校の周年記念誌

学校で発行されている周年記念誌は、児童が直接活用できる郷土資料です。市政図書室には各小中学校のものを収集していますので、ほかの学校のものもご覧になれます。

(6) 新聞記事スクラップ

市政図書室で保存している資料の中でも重要視しているものに、日野市に関する新聞記事のスクラップがあります。日野市が移動図書館だけでサービスを開始した1965(昭和40)年から今日までずっと続いている作業で、スクラップした記事は永久保存しています。切り抜いた記事は独自の分類法によって分類し、テーマごとにファイルして、閲覧できるように書架に並べてあります。

3. 図書館ホームページの活用

図書館ホームページ(<https://www.lib.city.hino.lg.jp>)にも、郷土研究に有用な情報を載せています。

(1) 日野市についてよくある質問(レファレンス事例集)

「郷土日野」指導事例第8集でも紹介しています。

質問に対して調べる際に役に立つ資料をご紹介します。残念ながら解答が載っているわけではないのですが、調べたいテーマについてどのような資料をあたったらよいか悩んだ時の参考になります。

(2) 日野宿発見隊(<http://www.hinoshuku.com>)

日野図書館で市民と協働で地域を再発見しようと活動している「日野宿発見隊」のホームページです。トップページよりリンクがはられています。

こちらのホームページでは市内の昔の写真が多数掲載されています。写真は児童にも訴えかけるものが大きいので、郷土教育に活用できると思います。

(3) ひの史跡・歴史データベース(http://www.c-hino.org/hino_history/index.html)

リンク集には市内の機関や団体ホームページにリンクがはられているので、そのまま調べたいテーマのページにジャンプすることも可能です。

その中で郷土研究に有用なホームページとして、「ひの史跡・歴史データベース」があります。NPOサイバー日野が作っているもので、日野市広報に掲載されていた「日野歴史・史跡紹介」コーナーをインターネットで見られるようにしたものです。このホームページの優れたところは検索機能があるということで、キーワードを入れればその記事にたどり着くので大変便利です。

以上、市政図書室を中心に図書館資料をご案内しましたが、中央図書館の市民資料室でも地域資料を収集しています。また、日野図書館では新選組や日野宿に関する資料を、平山図書館では平山季重に関する資料を集めていますので、どうぞご利用ください。(高橋 寿恵)

4. 郷土教育推進のための普及・啓発

(1) 地域を知る指導者の育成

～豊田・川辺堀之内地区の教材化～

①フィールドワーク

郷土教育を推進するためには、指導者自身が地域の歴史や自然、文化、人材などをより深く知り理解するとともに、人と交流したりモノに直接触れたりすることにより、地域への誇りや愛着を実感する必要がある。その上で、具体的な地域素材の教材化を図り、それを指導することによって子どもたちの興味・関心は高まる。指導者自身が「このことを伝えたい」「気づかせたい」と願いをもって指導に当たることで「ふるさと日野」に自信と誇りをもった「ひのっ子」を育成することができる。

そこで、郷土日野の自然、歴史、文化、産業など郷土のよさや特色について、より深く・より広く知り、具体的な実践が図れる指導者の育成を目指して、例年夏季休業日にフィールドワークを実施している。これは、日野市教育委員会と郷土教育推進委員会の共同事業として、本委員会のメンバーが講師となっていて行っている。今年度は「豊田地区」を取り上げて7月24日にフィールドワークを実施した。ねらいは次の3点になる。

- ・豊田地区を調査し、その教材化の視点・方法を探る。
- ・郷土資料の収集と活用の方法、郷土教育・授業実践のあり方を学ぶ。
- ・図書館、博物館の活用方法と連携のあり方を学ぶ。



JR豊田駅

明治34（1901）年、地元の有志の寄付によって甲武鉄道の駅として開設された。当初は、南口だけであったが、昭和33（1958）年日本住宅公団多摩平団地がつくられ、利用者が増えて北口が作られた。この時、ここにあった共同墓地は善生寺の北と町営火葬場に移転した。多摩平団地は建て替えられて「多摩平の森」となったが、一部駅前に昭和36年に建てられた「公団住宅駅前第1、第2住宅」が残っている。なお、2010年からは、中央線の発車メロディーが旭ヶ丘に住んでいた異聖歌が作詞した「たき火」が使われている。



豊田地蔵尊

豊田駅の南口にある豊田地蔵尊は、日中戦争から太平洋戦争までの戦没者35名の慰霊と平和な世の中を願って、昭和34（1959）年土地の有志によって建てられた。「体の具合の悪いところをなげるとよくなる」と言われ、入り口にも一体地蔵が置かれている。



中央図書館下の湧水

平成15（2003）年1月東京都は「東京の名湧水57選」を公表した。日野市内では黒川用水、小沢緑地の湧水とともに、この湧水が選ばれている。その理由は、①市民による水質調査などが行われ、市民の関心が高いこと、②子どもたちの遊び場になるなど生活に密着していることが挙げられている。この上には図書館が建てられる前は、八幡神社があった。



山口家

明治7（1874）年3月長屋を校舎にして豊田学校を開設した。その後、山口家では明治19（1886）年～同27年までビールを製造販売する。さらに、平太夫や清之助が中心になって豊田駅を誘致したり、耕地整理を実施したりするなど、積極的に地域活動を展開した。最近の発掘では、瓦を焼いたダルマ窯が見つかっている。



清水堀

浅川沿いの豊田用水より一段高い所を流れる清水堀は、白鬚神社や三嶋社など段丘崖（吹上台地）の下から湧き出している。古くから、集落の飲料水や生活用水として利用されてきた。水路は、どの家でも利用できるよう家の間をうまく流し、流末は豊田用水に流れ込んでいる。「かわど」と呼ばれる一段低くなった洗い場なども、所々に残されている。町の中をせせらぎが流れる様子は、郡上八幡や津和野などの景観を想起させる。



若宮神社

創建年代は不詳。白鬚神社、日枝神社、八幡神社（中央図書館）が合祀され、その謂れを示す石碑などがある。中学年の社会科の教科書には、地域に伝わる行事に関連して、合祀された神社の謂れを石碑から読み取る事例が示されている。その導入や発展学習として活用できる。



下の水車

豊田地区には、上と下の2つの共同水車があった。共同水車は農家が出資して設置、メンテナンスも共同で行う。上と下の水車で、77人の組合員がいた。下の水車は、明治32年3月新設され、太平洋戦争以前に廃止したようであるが、水車用水路（写真左の水路）が今も残っている。水輪の直径は約3.6mで、米などを精白する搗き臼が8個あった。



小高田

小高田は、周りの田よりやや小高い所にあることから名づけられた。現在は三段で、豊田用水の分水からそれぞれが取水している。しかし、水不足の時には、田越灌漑といって上の田から順次、下の田に水が掛るようになっている。なお、近くの子どもたちは段丘崖の林を、親しみをこめて「豊田のトトロの森」と呼んでいる。



延命寺と阿川丈齋の碑

延命寺は、高幡金剛寺の末寺で、境内には文明2（1470）年9月の日野では唯一の逆修（生前に、死後の供養のために建てる）板碑があり、日野七福神のうち寿老尊を祀っている。また、入り口にある丈齋先生之碑は、漢方医で貧しい人々を差別しないで救った阿川丈齋を顕彰した石碑で、明治23（1890）年12月に建てられた。彼は山梨県上野原の出身で、大変酒好きであったが、医業の傍ら村の子どもたちに学問を教え、明治21年8月48歳で亡くなっている。



日枝神社とムクノキ

日枝神社は川辺堀之内村の鎮守で、江戸時代の初め、近江国（今の滋賀県）坂本の日吉大神を勧請したという。大山咋命（おおやまくいのみこと）、猿田彦命を祀り、祭日は9月1日。社殿の後ろには日野市天然記念物で、高さ約23m、樹齢300年以上のムクノキがそびえている。西を豊田用水が流れ、南には上田用水の取水口がある。



上田用水の取水口（左）と豊田用水排水樋門（右）

豊田用水は平山橋左岸から取水し、明治末の大規模な耕地整理後は浅川に並行して流れ、3～5本の支流が合流したり分離したりしていた。その流末の1つが、日枝神社裏で浅川に流れ込んでいる。ここには、浅川が大水の時に用水に逆流しないよう樋門がある。また、上田用水にも豊田用水の残水が流れ込んでいる。

上田用水は上田・宮地区の田用水で、土地区画整理事業で支流のほとんどが無くなり、太くて深い直線の幹線になった。

② 研修会

午後の研修は、日野第二小学校のランチルームで、フィールドワークを行った豊田地区の理解をさらに深めるとともに、地域教材の授業での活用方法を学ぶ講義・演習を実施した。その内容は、次の通りになる。



- ・フィールドワークのまとめ
- ・図書館の利用 (高橋委員)
- ・実践事例発表

見よう！知ろう！調べよう！ひの～日野煉瓦～

(3年総合) (馬鳥委員)

豊かな自然「カワセミ」(3年道徳) (秋田副委員長)

「探ろう田んぼのパワー」(5年総合) (松本元委員)

- ・吹上遺跡を中心とした発掘成果について (文化財係大石氏)

- ・教材化演習 郷土資料の活用と問題解決学習 (小杉顧問)

実践事例発表は、昨年度郷土教育推進研究委員会で作成したものが主になる(昨年の報告書参照)。

「図書館の利用」では、高橋委員から①図書館から学校へのサービスについて、②図書館の郷土教育への活用について、

多数の本を持参しての具体的な話があった。また、文化財係大石氏からは、埋め戻されて見学することはできなかったが、吹上遺跡で発掘された古墳(古墳時代後期の円墳6基)を中心に、弥生時代末～古墳時代と奈良～平安時代の住居跡、土器や鉄製品などの豊富な遺物について紹介があった。

さらに、小杉顧問からは、地域には子どもたちをひきつける実物が多く残っている。フィールドワークを実施して、現地で本物と触れ合う共通体験をもたせることが大事。現地で見ることでより子どもたちが感動し、発言を多くようになる。また、具体的な事例として豊田地区の地図を使い、見学・観察したところを○で囲んだり、地図記号の確認や色分けをしたりするなどの作業をした後、子どもたちが話し合っって学習課題を設定、意見を出し合っって疑問を解決していくことが、授業の楽しさになると指導があった。

・フィールドワークのまとめ

豊田地区は水が豊富なことから、水を中心に地形、歴史、用水について振り返ってみる。まず、豊田地区の地形は、日野台地、その南に一段低い吹上台地、さらに浅川沿いの低地と三段に分かれる。日野台地の下の崖線から黒川が流れ出し、以前はこれに沿って田んぼが作られた。しかし、吹上台地の南は畑で、さらに台地南の崖線から湧き出る清水堀を飲料水や生活用水に使い、一段低い所に豊田の集落が作られた。湧水と寺社のあった場所は一致することが多く、湧き水は地域の信仰上重要な場所であった。

次に、水が得やすかったことから、豊田地区には昔から人々が住みついた。吹上からは縄文中期の遺跡が多く出土し、今回、古墳6基が発掘された。また、古墳後期から奈良時代にかけて、梵天山や谷の上からは横穴墓が多数見つかっている。平安から鎌倉時代は摂関家の荘園の一部で、1550年頃は高幡の高麗一族が領有した。江戸時代の領主は旗本大久保氏で、一族の墓は善生寺にある。明治7年3月山口平太夫家の長屋を校舎にして豊田学校が開校した。教師の今井匡之は、自由民権運動に参加している。また、山口家は、明治19～同27年までビールを生産した。明治22年豊田村は、他の7カ村と一緒に桑田村になる。名称の通り養蚕業は盛んであったが、学校施設を整える必要から明治34年日野町と合併した。同年には豊田駅が開設され、府立農事試験場の分場ができた。これらの開設には、敷地の整理や提供、道路の設置、駅舎建設費の負担など地元が積極的に協力した。また、明治43年6月、多摩地区では一番早く耕地整理事業に着手し、約62haが整地された。昭和12年日野町の方針で大工場が誘致され、地下水が豊富で広い敷地が確保できたことから、昭和10年日本篩絹株式会社（NBCメッシュテック）、昭和13年日野自動車に移転してきた。太平洋戦後は深刻な住宅不足を解決策するため、日本住宅公団が豊田の台地上30haに、第1期工事として約2,800戸の多摩平団地の建設を行った。自宅の風呂やステンレスの流しなどが庶民の憧れの的で人口が急増し、昭和38年日野は町から市へと発展した。

3つ目の用水は、聞き取り調査では自然エネルギーを使った水車の話をよく聞く。動力用の水車は、組紐、針金、火薬製造、カレーや七味唐辛子の材料の製粉、生糸の揚げ返しなど、日本の各地で様々な産業の原動力として活躍した。しかし、主流は精米・精麦、小麦の製粉になる。子どもたちに、玄米と白米の実物を見せたり、搗き棒や瓶を使って精米体験をさせたりすると理解が深まる。なお、日野の用水は①現在でも126km残り、「水の郷」指定を受けるなど地域の特色になっている。②環境教育の導入として、小魚やザリガニを取るなど、自然と触れ合う体験ができる。③飲料水や生活用水、田用水、水車の動力として人々の生活を永年支えてきた歴史がある。④用水の保全・活用のため、用水組合や市、市民大学が協力して取り組んでいる。このように関係者の願いや活動も学べるので、子ども達に「ふるさと意識」を育む教材として適している。導入例としては用水の中で遊ぶ、次に用水沿いを歩き外から観察する。その後、文章資料や昔の写真や地図によって時間的・空間的に視野を広げる中から、子ども達に課題をもたせるとよい。

現在、区画整理により豊田の景観は変化している。残された寺社や用水路、水田、林などを含めた地域資源を、今後活かす方向で教材化を試みてはどうか。 (小坂 克信)

(2) 校長の役割

① 校長講話 「大昔から人が住み続けてきた滝合地区」

今の東京と言えば、新宿や渋谷、池袋や品川など都心と言われるところに人が集まり、会社やお店、ビルがたくさん立ち並び賑やかな場所になっています。ところが、今から400年ぐらい前までは違っていました。昔は日野市などの多摩地区を含めて今の東京都は武蔵の国と言いました。その武蔵の国の今で言えば県庁所在地は日野市のお隣の府中市にありました。実は今の東京都で言えば、昔はこの多摩地区の方が栄えたまちでした。その頃の今の都心は海だったり、湿地帯だったり、草深い場所だったりしたそうです。今の東京都心の繁栄は、今から約400年前に江戸（東京）に移ってきた徳川家康によって始まりました。

この多摩地区が大昔は今の都心よりも栄えていた証拠が日野市にもあります。それもみんなが住んでいるこの滝合小学校の学区にも証拠があります。それは平山遺跡です。滝合小学校の北の方のJRの豊田電庫の近くにあります。最近の区画整理に伴う遺跡の発掘で見つかったのです。今から1000年ぐらい前の大きな建物の跡が見つかりました。まだ、分からないことも多いそうですが、これからまだまだ新しい発見がありそうです。

さて、大昔の人は1か所に場所を決めずに移動しながら生活をしていました。それからだんだんと住みやすい場所を選んで暮らし始めました。そして、今につながる米を生産する暮らしが始まり現代につながってきました。

大昔の人が住む場所を決めるために大切なことは5つあります。

① 日当たりのよい風を避けることができる場所

大昔の人は日当たりの良い南に面したところで、水はけのよい場所を選びました。

② 湧水、川や湖沼に近い場所

人が生きていくためには水が欠かせません。ですから、湧水、湖や沼が近くにあるところを選んで住んでいました。飲み水はもちろんのこと、魚や貝などの食べ物もたくさんあり、洗濯や水浴びもできました。船があれば歩くより楽に移動でき、大きくて重たい荷物も運べます。

③ 近くに林や森のある場所

食べ物は林や森にたくさんありました。木の実や食べられる植物がたくさんあり、動物もたくさんいました。そして、林や森には木がたくさんあります。家や道具の材料にもなりました。

④ 安全な場所

日本は気候的にも地形的にも大昔から災害が多い国です。地震、津波、洪水、土砂崩れ、噴火、土石流などの被害に遭わないような安全な場所を選んで住んでいました。

⑤ 自然を敬い、その象徴のものがあるところ

大昔から日本人は自然を恐れ、様々な恵みを与えてくれる自然を敬ってきました。その象徴が山であり、森であり、海でした。この平山地区からは高尾山や富士山がきれいに見えます。自然の象徴としての大きな山である富士山の見える場所を選んで住んだと考えられます。

このように考えると滝合小学校の周りはこの5つのことがそろっていると思いませんか？日当たりがいいところ、湧水もあり、大きな川である浅川も流れています。近くに林や森もあります。浅川より少し高いところに住んでいれば安全です。

滝合小学校のあるこの場所は、大昔から人にとってとても住みよい場所なのです。

(滝合小 岡部 君夫)

② 校長講話 「開校140周年記念式典の朝に」

- 今日は、私たちの日野市立日野第二小学校開校140周年をお祝いする日です。
- 今から140年前、地域の人たちが子供たちのための学校をつくらうと努力してくださいました。
- それまでは、豊田地区と川辺堀之内地区の2か所に、寺子屋という子供たちが勉強する場所がありました。
- この寺子屋を地域の人々が一つにまとめて、学校がつくられました。
- 明治7年（1874年）3月のことです。
- 学校の名前を「豊田学校」と言いました。
- 校舎は、地域の山口 平太夫さんという方の家の一部をお借りしました。
- 当時の学区域は今と違って、豊田村、川辺堀之内村、上田村が学区でした。
- 始めの年は、3地域から全部で44人の子供が通ってきました。
- それから140年の間ずっと、地域の人たちは学校をとっても大事にしてくださいました。
- どんな支えがあったか、いくつか紹介します。
- 明治12年（1879年）には、通ってくる子供の数が増えたので、善生寺の境内に木造（木で作った）校舎が建てられましたが、その費用は、地域の人たちが出し合ってくださいました。
- 昭和17年（1942年）には、いま二小があるこの場所に校舎が新しく建ち、学校の引っ越しをしました。
- そのときは、先生や子供たちと一緒に、青年団の人たちが荷物を運んでくださいました。
- 校庭が狭かったので、田んぼを校庭にする作業をしてくださったり、校庭を広げるための署名運動をしてくださったりしたのも、保護者や地域の方たちです。
- 浅川が汚れてきて子供たちが泳ぎにくくなったので、プールを作ってあげようとPTAや地域の人たちが考えてくださり、昭和31年（1956年）に、立派なプールが完成しました。
- ビオトープや、今年できた縄跳び広場「エリア140」も、PTAや地域の方々のおかげです。
- いつも「学校のために」「子供たちのために」と力を出してくださる地域の方々のお気持ちが、本当にありがたいです。
- 地域との深いつながりがある学校なので、来年（平成27年）4月からは、この学校の名前が「日野市立豊田小学校」に変わります。
- 新しい豊田小学校を、いい学校にしていきたいです。
- そのために、地域の人たちに感謝の気持ちを持ち、勉強や運動や挨拶を力一杯やりましょう。
- 今朝は、開校140周年のお話でした。
- 日野第二小学校開校140周年 おめでとうございます。

平成26年10月25日

（日野第二小学校 中村 康成）

Ⅲ 研究のまとめ ～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人の教材化を通して～」のもと、1年間、研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土資料の教材化を通して、指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子供たちに郷土の特色やよさを伝えたいと意識を高めたことである。教師の意識の高まりと授業実践意欲が、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

今年度の成果は大きく二点あると考える。その一点は昨年4月提出された日野市第2次学校教育基本構想に沿った研究であり、豊かな体験を実現するため、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながり」による教育の推進が可能となったことである。このため、地域の自然や歴史を教材とした郷土教育を推進し、子供たちの興味や創造性、感性を豊かにすることが大切であると考えられた。学びの場は学校だけでなく、郷土そのものの中にあり、この郷土の姿に気づかせていく学習を開発していくことが郷土教育の使命である。こうした意味で、今年度は郷土教育を通じ、地域の人たちが地域を盛んにしようと努力する姿に直接触れることができ、より身近に地域のことが学べたことと考えている。また、日野市第2次学校教育基本構想を反映するかのように、本市では区画整理事業が進行し、これに伴って過去の遺跡や遺物が多く発見され、新たな視点で郷土を見直すことができるようになった。

さて、こうした中での課題は、これまで蓄積してきた郷土教育の指導法や学習教材を如何に若手教員伝えていくかという点である。このことで大切なことは郷土への興味・関心を若手教員にもたせることである。

1 成果

(1) 郷土教材の開発と指導者の育成

- ① 新しい指導資料を発掘し、継続した教材の作成に努めることができた。
 - ・豊田～川辺堀之内地区、巽聖歌、日野第六・日野第七小学校学区の教材化を図った。
- ② 歌や踊りを教材として利用し、幼児や低学年児童の学習意欲を高めることができた。
- ③ 幼稚園で引き続き紙芝居教材「日野の昔話」を作成することができた。
 - ・高幡不動金剛寺に伝わる昔話「ころがりおちたおふどうさま」「うなぎにすくわれたはなし」
- ④ 旭が丘商工会やお話しサークルの方等の協力により授業を盛り上げることができた。
- ⑤ 郷土資料館から現在発掘中の遺跡（吹上、平山遺跡）の紹介を受け、各委員にこのことを紹介し郷土教育への意識を高めることができた。

(2) 郷土資料館・図書館等関係機関と連携した学習指導法の研究

- ① 問題把握・追究・まとめの学習過程で、効果的に郷土資料を活用し、問題解決型の授業を推進することができた。
- ② 新選組のふるさと歴史館や郷土資料館の展示内容を適宜紹介してもらい、相互に連携した教育活動を推進することが可能となった。
 - ・社会科見学での十分な打ち合わせと体験学習の導入を図った。

- ・郷土資料館による実物の郷土教材を活用した出前授業の充実を図った。
- ・図書館保有資料（図書、広報、写真）を活用した授業を実践することができた。
- ③ 関係機関、地域人材と連携した授業、各委員の協力によりフィールドワークを実施することができた。
- ④ 幼稚園による関係機関・地域人材と連携した園外保育の工夫ができた。

（３）郷土教材の電子データ化

- ① 「郷土日野」指導事例集と指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。ホームページ開設以来、アクセス数が1万件を越えた。
- ② 郷土教育に電子データ化された教材やICT機器を活用した授業実践を行うことができた。
- ③ 過去のプレゼンテーションデータを全員が共有し、活用することができた。

（４）その他

- ① 本市小学校校長会の理解と協力のもと「郷土教育は校長のリーダーシップから」を合言葉に児童朝会で郷土教育に関する「校長講話」を実施することができた。
- ② 郷土教育推進研究委員会委員が、1年間の継続研究を通して、日野のよさ・特色に気付き、郷土の教材化・授業実践の楽しさを体験した。また、子供、保護者、地域と共に授業を創造し、授業力を向上させた。
- ③ 本委員会に学校現場から、フィールドワーク、授業、若手教員指導の要請が増え、できる限り学校現場の期待に応えている。

2 課題

- (1) 研究推進・授業実践の成果をさらに継承・発展・定着させることが重要である。これまで本委員会で培ってきた郷土教育の内容や指導法を若手教員に定着させていくことが大切である。
- (2) 郷土教育推進リーダーの養成と若手教員の育成が必須である。教育現場では、郷土教育日野への理解が深まり実践意欲が高まりつつあるが、教員・学校間の郷土教育への関心度の差が大きい。「日野をふるさとと思い、日野に誇りと愛着をもった教員」「ひのっ子教育を背負って立つ気概をもった教員」の育成が必要である。
- (3) 日野市教育委員会と連携し、日野の特色やよさが理解できるフィールドワーク・教材化・授業づくりを工夫した研修会を充実させることが必要である。
- (4) 博物館、図書館、公民館等生涯学習関係との連携・協力関係を深め、学校との人材の交流、協働授業等の協働関係をさらに充実させることが必要である。
- (5) 本委員会所属委員間で相互に授業を見合い、児童・生徒の実態、郷土教材の有効性を検証し、よりよい教材化と授業実践を図りたい。

（中島 和夫 廣木 智之）

郷土教育推進研究協力者（敬称略）

・大石 絵里子	日野市生涯学習課	講師
・北村 澄江	郷土資料館	講師
・田中 三雄	旭が丘商工会	講師、資料・情報提供
・河村 由美子	旭が丘商工会	講師、資料・情報提供
・大高 勲	日野市朗読サークル日野	読み聞かせ
・千葉 正	教育センター	I C T活用
・垣内 成剛	教育センター	ホームページ情報発信

郷土教育推進研究協力団体

- ・日野市立日野第二小学校 ・日野市立第五幼稚園 ・日野市立第七幼稚園
- ・高幡山金剛寺 ・旭が丘商工会 ・日野市公立小学校校長会

平成26年度 郷土教育推進研究委員会委員

No.	役職	所属	職	氏名
1	委員長	滝合小学校	校長	岡部 君夫
2	副委員長	日野第二小学校	副校長	秋田 克己
3	顧問	元渋谷区立常盤松小学校	元校長・学識経験者	會田 満
4	顧問	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉野 美智子
5	顧問	元日野市立日野第一小学校	元校長・学識経験者	小杉 博司
6	委員	第五幼稚園	教諭	森 陽子
7	委員	第七幼稚園	教諭	榎本 恭子
8	委員	日野第一小学校	教諭	馬鳥 誠
9	委員	日野第二小学校	教諭	小池 潤子
10	委員	日野第六小学校	教諭	鈴木 信之
11	委員	潤徳小学校	教諭	土方 瑠依
12	委員	日野第七小学校	教諭	中島 康治
13	委員	旭が丘小学校	教諭	岩井 美保
14	委員	七生緑小学	非常勤教員	小坂 克信
15	委員	新選組のふるさと歴史館	学芸員	松下 尚
16	委員	郷土資料館	学芸員	秦 哲子
17	委員	市政図書室	司書	高橋 寿恵
18	事務局	市教委学校課	指導主事	長崎 将幸
19	事務局	日野市立教育センター	所員	中島 和夫
20	事務局	日野市立教育センター	所員	廣木 智之

郷土教育推進研究報告書

平成26年度「郷土日野」指導事例 第10集

発行日 平成27年 3月31日
発行 日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会
〒191-0042 日野市程久保550
TEL 042-592-0505
FAX 042-592-1148
印刷 システム印刷株式会社